

經 濟 学 部

履 修 要 項

昭 和 58 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(金) 入学式(学部・短大・大学院)
 积尊降誕会
- 9日(土) }
 { 新入生オリエンテーション
- 13日(水) }
 { 在校生成績発表
 (学部・短大・大学院)
- 12日(火) }
 { 授業開始
- 14日(木) }
 { 在校生成績質疑応答
- 16日(土) }
 { 1年次生単位履修届受付
- 20日(月) }
 { 2・3・4年次生
 単位履修届受付
 (学部により受
 付日が異なる)
- 22日(金) }
 { 2・3・4年次生
 単位履修届受付
 (学部により受
 付日が異なる)
- 28日(木) }
 { 2・3・4年次生
 単位履修届受付
 (学部により受
 付日が異なる)
- 29日(金) 天皇誕生日

- 5月1日(日) 祝禱日
- 2日(月) 研修日(全学休業)
- 3日(火) 憲法記念日
- 4日(水) 研修日(全学休業)
- 5日(木) こどもの日
- 10日(火) }
 { 2・3・4年次生健康診断
- 19日(水) }

- 6月1日(水) 祝禱日
- 9日(木) 卒業論文論題提出締切
- 7月1日(金) 祝禱日
- 7日(木) }
 { 中間試験(授業平常通り)
- 13日(水) }
 { 前期定期試験(前期終了科目)
 (授業休講)
- 14日(木) }
 { 孟蘭盆会
- 15日(金) }
 { 夏期休暇第1日
- 16日(土) }

後 期

- 9月12日(月) 授業再開
- 13日(火) 前期定期試験欠試届(追試申
 込)提出締切
- 15日(木) 敬老の日
- 16日(金) 外国語指定届受付(22日まで)
 (仏教・文(除英米文)・法学部
 及び短大国文の1年次生, 経
 済学部の2年次生)
- 16日(金) }
 { 前期定期試験成績発表および
 再試験申込受付
- 17日(土) }
 { 秋分の日
- 23日(金) }
 { 前期追・再試験(授業平常通
 り)
- 26日(月) }
 { 前期追・再試験(授業平常通
 り)
- 27日(火) }

- 29日(木) 両祖(道元・榮山禪師)忌
 祝禱日
- 10月1日(土) }
 { 1年次生健康診断
- 3日(月) }
 { 達磨忌
- 5日(水) }
 { 社会学科(1年次生)・
 歴史学科(2年次生)・
 専攻コース指定届受付
- 6日(木) }
 { 体育の日
- 6日(木) }
 { 第101回開校記念日
- 7日(金) }
 { 前期追・再試験成績発表
- 10日(月) }
 { 祝禱日
- 15日(土) }
 { 文化の日
- 18日(火) }
 { 太祖(榮山禪師)降誕会
- 19日(水) }
 { 勤労感謝の日
- 11月1日(火) }
 { 祝禱日
- 3日(木) }
 { 転部科試験願書受付
- 21日(月) }
 { 編入学願書受付(13日まで)
- 23日(水) }
 { 成道会
- 28日(月) }
 { 転部科試験
- 12月1日(木) }
 { 卒業論文提出締切(正午)
- 3日(土) }
 { 冬期休暇第1日
- 5日(月) }
 { 編入学試験
- 8日(木) }
- 9日(金) }
- 10日(土) }
- 19日(月) }
- 20日(火) }

昭和59年

- 1月9日(月) 授業再開
- 15日(日) 成人の日
- 17日(火) }
 { 定期試験(専門・基礎・教職
 科目)
- 27日(金) }
 { 高祖(道元禪師)降誕会
- 26日(木) }
 { 定期試験(一般・外国
 語・体育科目)
- 28日(土) }
 { 祝禱日
- 2月1日(水) }
 { 定期試験欠試届提出締切
- 6日(月) }
 { 卒業論文口頭試問(後日揭示
 発表)
- 7日(火) }
 { 建国記念の日
- 11日(土) }
 { 涅槃会
- 15日(水) }
 { 学部4年次生・短大生成績発
 表および追・再試験申込受付
- 21日(火) }
 { 学部4年次生・短大
 生追・再試験, 学部
 1・2・3年次生追
 試験
- 22日(水) }
 { 卒業生名簿発表
- 28日(火) }
 { 春分の日
- 3月1日(木) }
 { 卒業式・大学院修了式
- 5日(月) }
- 19日(月) }
- 20日(火) }
- 25日(日) }

目 次

I	単位制と学年制	(2)
	1. 単位と学年	(2)
	2. 授業科目の単位計算	(2)
	3. 授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と学士号	(3)
	1. 卒業に必要な単位数	(3)
	2. 学 士 号	(6)
III	授業科目の履修方法	(6)
	1. 一般教育科目の履修方法	(7)
	2. 外国語科目の履修方法	(7)
	3. 保健体育科目の履修方法	(10)
	4. 基礎教育科目の履修方法	(12)
	5. 専門教育科目の履修方法	(13)
	6. 随意科目の履修方法	(19)
	7. 再履修科目の履修方法	(19)
	※コード番号について	(20)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(23)
	1. 履修科目の登録	(23)
	2. 履修届記入上の注意	(24)
	3. 履修届の作成順序	(25)
V	試験および成績評価	(26)
	1. 定期試験	(26)
	2. 中間試験	(26)
	3. 追・再試験	(26)
	4. 成績評価・単位認定	(27)
	5. 進級基準	(27)
	6. 受験者心得	(27)
VI	クラス制およびクラス主任	(29)
VII	教職課程・資格講座	(29)
VIII	事務取り扱いについて	(30)
IX	届書・願書について	(32)
X	各種証明書取扱い窓口	(33)
	講 義 内 容	(37)

I 単位制と学年制

1. 単位と学年

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、授業科目を履修することにより、各授業科目に一定の基準によって与えられている単位を修得することである。従って、各入学年度の履修要項に定められている卒業に必要な単位を4年以上（7カ年をこえてはならない）の在学期間中に修得すれば卒業の資格が得られる。

しかしながら、本学では単位修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されているから、単位制と学年制の総合された学修制度といえる。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは、1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は、教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なる。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……教科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

経済学科

A. 58年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	84	
	選択	17	68		

B. 56年度・57年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	3	12	84	
	選択	18	72		

C. 55年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	14	
	第 2 外 国 語	3	6		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	4	16	88	
	選 択	18	72		

商 学 科

A. 57年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

B. 56年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	1	4	84	
	選 択	20	80		

C. 55年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	14	
	第 2 外 国 語	3	6		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	2	8	88	
	選 択	20	80		

2. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

経済学科……経済学士 商学科……商学士

Ⅲ 授 業 科 目 の 履 修 方 法

※北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授 業 科 目 履 修 上 の 注 意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は再履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。

ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。

ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	4単位ずつ4科目	計16単位	合計9科目 36単位
社会分野	4単位ずつ3科目	計12単位	
自然分野	4単位ずつ2科目	計8単位	

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ (1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ・宗教学Ⅱ」の2科目を含めて4科目選択必修	16	36	
	宗教学Ⅱ (2年次必修)	4				
	哲学	4				
	論理学	4				
	倫理	4				
	文法史	4				
社会分野	法学憲法 (日本国憲法2単位を含む)	4	3科目選択必修	12	36	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	政治学(2年次)	4				
	社会学(2年次)	4				
	地理学	4				
	統計学	4				
自然分野	文化人類学	4	2科目選択必修	8	36	
	自然科学概論	4				
	数学心理学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1・2年次および3年次（56年度以降入学生）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第 1 外 国 語		第 2 外 国 語	
	科 目 数	単 位 数	科 目 数	単 位 数
1 年 次	2(2) 科目	4(4)	2(2) 科目	4(4)
2 年 次	2(2) 科目	4(4)	2(1) 科目	4(2)
3 年 次	1 科 目	2	—	—
計	5(4) 科目	10(8)	4(3) 科目	8(6)

※()内の数字は55年度以前入学生適用。

1 年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目で4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは英会話または英語LLに代替できる。	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
" 1R	2			
英 会 話	2			
英 語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること。	
" 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

A. 56年度以降入学生適用

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語（英語と他の1カ国語）を、それぞれ2AⅠ・2AⅡの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 A I	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 2 A I	2	} 1年次で履修した1カ 国語2科目 必修
英 語 2 A II	2		ド イ ツ 語 2 A II	2	
			フ ラ ン ス 語 2 A I	2	
			フ ラ ン ス 語 2 A II	2	
			中 国 語 2 A I	2	
			中 国 語 2 A II	2	
			ス ペ イ ン 語 2 A I	2	
			ス ペ イ ン 語 2 A II	2	
			ロ シ ア 語 2 A I	2	
			ロ シ ア 語 2 A II	2	

3年次の履修

1・2年次で履修の2カ国語のうち、いずれか1カ国語を第1外国語とし3Aを1科目2単位必修とする。

第1外国語

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 3 A	2		中 国 語 3 A	2	
ド イ ツ 語 3 A	2		ス ペ イ ン 語 3 A	2	
フ ラ ン ス 語 3 A	2		ロ シ ア 語 3 A	2	

B. 55年度以前入学生適用

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位、他方を第2外国語として2Bを1科目2単位、計3科目6単位を必修とする。

第1 外国語（指定した外国語 2 A I・2 A II の 2 科目 4 単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 A I	2		中 国 語 2 A I	2	
“ 2 A II	2		“ 2 A II	2	
ド イ ツ 語 2 A I	2		ス ペ イ ン 語 2 A I	2	
“ 2 A II	2		“ 2 A II	2	
フ ラ ン ス 語 2 A I	2		ロ シ ア 語 2 A I	2	
“ 2 A II	2		“ 2 A II	2	

第2 外国語（指定した外国語 2 B を 1 科目 2 単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 B	2		中 国 語 2 B	2	
ド イ ツ 語 2 B	2		ス ペ イ ン 語 2 B	2	
フ ラ ン ス 語 2 B	2		ロ シ ア 語 2 B	2	

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1・2年次履修の外国語（英語と他の1か国語）のうち、3年次に履修する第1外国語を学生自身が指定し、2年次の9月下旬に登録すること。（56年度以降入学生）
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 3年次までに所定の単位を修得していなければならない。（ただし、55年度以前入学生は2年次）

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保 健 体 育 理 論	2	前期または後期
実 技	体 育 実 技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも火曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期とも次の履修時間に含まれている数種目の中から決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名または種目の担任名ではない。

火・1 (商)		火・2 (経1～225)		火・3 (経226～)	
サッカー	田中	ハンドボール	村松	ソフトボール	森本
ハンドボール	村松	テニス	長浜	テニス	牧野
陸上競技	森本	卓球	嶋田	卓球	嶋田
卓球	嶋田	室内球技	田中	体操	◎三幣
室内球技	◎長浜	体操	三幣	柔道	光永
トレーニング	秋田	柔道	◎光永	室内球技	長浜
柔道	光永				

再履修クラス（2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う）

火・3
室内球技 ◎宮沢
空手道 大石

水・1	水・2
室内球技 ◎原山	室内球技 ◎原山
剣道 上山	剣道 上山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位の認定が行われる。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗 難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次に1科目4単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

- イ. 1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。
- ロ. 所属学科の開講科目を履修することを原則とするが、特に希望する場合、同学部内の専門教育科目に限り他学科の開講科目（一覧表示）でも履修して試験に合格すれば単位が認められる。（科目コード番号が335…ではじまる科目）

ただし、必修科目に関しては他学科の科目は履修できない。

経済学科

必修科目

A. 58年度入学生 4科目16単位

2年次必修		
授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	
経済原論Ⅱ	4	
経済史	4	
経済政策	4	

B. 56年度・57年度入学生 3科目12単位

2年次必修		
授業科目	単位	備考
経済原論	4	
経済史	4	
経済政策	4	

C. 55年度以前入学生 4科目16単位

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論	4		外書講読Ⅰ	4	
経済史	4				
経済政策	4				

選択科目

A. 58年度入学生 (68単位以上)

B. 57年度入学生 (72単位以上)

1年次選択			3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
会計学総論	4		財政学	4		保険論	4	
2年次選択			金融論	4		貿易論	4	
簿記論	4		社会政策	4		証券市場論	4	
財務会計論	4		商業政策	4		銀行論	4	
経営学総論	4		農業政策	4		税務会計論	4	
統計原論	4		工業政策	4		経済法	4	
商学総論	4		民法二部	4	債権	会計監査論	4	
憲法	4		商法一部	4	総則・会社法	国民所得論	4	
民法一部	4	総則・債権	商法二部	4	商行為・手形・小法	管理会計論	4	
演習Ⅰ	4	アメリカ経済論				4		
3年次選択			景気変動論	4		中国経済論	4	
演習Ⅱ	4		交通論	4		アジア経済論	4	
4年次選択			財政政策論	4		ヨーロッパ経済論	4	
演習Ⅲ	4		国際金融論	4		日本経済論	4	
3・4年次選択			経済地理	4		ソヴェート経済論	4	
近代経済学	4		労働経済論	4		中小企業論	4	
経済学史Ⅰ	4		労務管理	4		価格理論	4	
経済学史Ⅱ	4		原価計算論	4		教育経済論	4	
日本経済史	4		労働法	4		原書講読	4	旧外書講読
国際経済論	4		人口論	4				

C. 56年度以前入学生（72単位以上）

1 年 次 選 択			3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単 位	備 考	授業科目	単 位	備 考	授業科目	単 位	備 考
会計学総論	4	※イ	財 政 学	4		保 険 論	4	
2 年 次 選 択			金 融 論	4		貿 易 論	4	
簿 記 論	4		社 会 政 策	4		証 券 市 場 論	4	
財 務 会 計 論	4		商 業 政 策	4		銀 行 論	4	
経 営 学 総 論	4	※ロ	農 業 政 策	4		税 務 会 計 論	4	
統 計 原 論	4		工 業 政 策	4		経 済 法	4	
商 学 総 論	4		民 法 二 部	4	債 権	会 計 監 査 論	4	
憲 法	4		商 法 一 部	4	則・法 会社 商・行 為手 形手 小法	国 民 所 得 論	4	
民 法 一 部	4	総 則 物 権	商 法 二 部	4		管 理 会 計 論	4	
演 習 I	4					ア メ リ カ 経 済 論	4	
3 年 次 選 択			景 気 変 動 論	4		中 国 経 済 論	4	
演 習 II	4		交 通 論	4		ア ジ ア 経 済 論	4	
4 年 次 選 択			財 政 政 策 論	4		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論	4	
演 習 III	4		国 際 金 融 論	4		日 本 経 済 論	4	
3・4年次選択			経 済 地 理	4		ソ ヴ ィ エ ト 経 済 論	4	
近 代 経 済 学	4		労 働 経 済 論	4		中 小 企 業 論	4	
経 済 学 史 I	4		労 務 管 理	4		価 格 理 論	4	
経 済 学 史 II	4		原 価 計 算 論	4		教 育 経 済 論	4	
日 本 経 済 史	4		労 働 法	4		原 書 講 読	4	旧 外 書 講 読 II
国 際 経 済 論	4		人 口 論	4				

※イ. 簿記学を修得した者は、会計学総論を履修できない。

※ロ. 経営経済学を修得した者は、経営学総論を履修できない。

商 学 科

必修科目

A. 57年度以降入学生 3科目12単位

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		商 学 総 論	4	
			経 営 学 総 論	4	

B. 56年度入学生 1科目4単位

1 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4	

C. 55年度以前入学生 2科目8単位

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4		外 書 講 読 I	4	

選択科目

A. 57年度以降入学生 (72単位以上)

2年次選択			3・4年次選択			3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
簿記論	4		財政学	4		貿易論	4	
財務会計論	4		金融論	4		証券市場論	4	
経済原論	4	※イ	社会政策	4		銀行論	4	
経済原論Ⅰ	4	※ロ	商業政策	4		税務会計論	4	
経済原論Ⅱ	4	※ハ	農業政策	4		経済法	4	
経済政策	4		工業政策	4		会計監査論	4	
経済史	4		民法二部	4	債権	国民所得論	4	
商業史	4		商法一部	4	総則・ 会社法 商行為 ・手形 手 小切 手 法	管理会計論	4	
統計原論	4		商法二部	4		アメリカ 経済論	4	
憲法	4					中国経済論	4	
民法一部	4	総則 債権	景気変動論	4		アジア 経済論	4	
演習Ⅰ	4		交通論	4		ヨーロッパ 経済論	4	
3年次選択			財政政策論	4		日本経済論	4	
演習Ⅱ	4		国際金融論	4		ソヴィエト 経済論	4	
4年次選択			経済地理	4		中小企業論	4	
演習Ⅲ	4		労働経済論	4		価格理論	4	
3・4年次選択			労務管理	4		マーケティング	4	
経済学史Ⅰ	4		原価計算論	4		商品学	4	
経済学史Ⅱ	4		労働法	4		経営管理論	4	
日本経済史	4		人口論	4		教育経済論	4	
国際経済論	4		保険論	4		原書講読	4	旧 外書講読

※イ. 57年度以前入学生適用

※ロ. 58年度入学生適用

※ハ. 58年度入学生適用

B. 56年度入学生 (80単位以上)

C. 55年度以前入学生 (80単位以上)

2 年 次 選 択			3・4 年次選択			3・4 年次選択		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
商学総論	4		財 政 学	4		貿 易 論	4	
経営学総論	4		金 融 論	4		証券市場論	4	
簿 記 論	4		社会政策	4		銀 行 論	4	
財務会計論	4		商業政策	4		税務会計論	4	
経済原論	4		農業政策	4		経 済 法	4	
経済政策	4		工業政策	4		会計監査論	4	
経 済 史	4		民法二部	4	債 権	国民所得論	4	
商 業 史	4		商法一部	4	総則・ 会社法	管理会計論	4	
統計原論	4		商法二部	4	商行為 ・手形 小切手 法	アメリカ 経済論	4	
憲 法	4	中国経済論				4		
民法一部	4	総則・ 物権	景気変動論	4		ア ジ ア 経済論	4	
演 習 I	4		交 通 論	4		ヨーロップ 経済論	4	
3 年 次 選 択			財政政策論	4		日本経済論	4	
演 習 II	4		国際金融論	4		ソヴィエト 経済論	4	
4 年 次 選 択			経済地理	4		中小企業論	4	
演 習 III	4		労働経済論	4		価 格 理 論	4	
3・4 年次選択			労 務 管 理	4		マーケッテ ィング	4	
経済学史Ⅰ	4		原価計算論	4		商 品 学	4	
経済学史Ⅱ	4		労 働 法	4		経営管理論	4	
日本経済史	4		人 口 論	4		教育経済論	4	
国際経済論	4		保 險 論	4		原 書 講 読	4	旧 外書 講読Ⅱ

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比較思想特講	4		日 本 語 F	2	(初級・中級)
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)
中 国 語 F	2		中 国 語 FLL	2	(初級・中級)
ス ペ イ ン 語 F	2		ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)
ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)

※ 日本語Fは留学生対象の科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。（P23のI参照）

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は新履修とみなす。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



(a) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(b) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	3
外 国 語 科 目	2	
第 1 外 国 語		
第 2 外 国 語		
保 健 体 育 科 目	4	
体 育 実 技		1
保 健 体 育 理 論		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1.2.3
選 択 科 目		5.6.7.8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程・講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3.4.5.6.7.8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 学生番号区分

・ 入 学 年 度 (西曆)	・ 学 籍 異 動	・ 学 部	・ 学 科	一連番号			・ 一 連 番 号

(例) 正規学生番号

3	0	3	1	0	0	0	1
・ 83 年 入 学	・ 事 故 な し	・ 経 済 学 部	・ 経 済 学 科	一連番号(1番)			

ロ. 学籍異動の番号について

0—正規の学生

1—留年

2—転部科

3—編入

4—留年をして転部科

転部科・編入をして留年

(例I) 留年学生番号

2	1	3	1	0	0	1	1
・ 82 年 入 学	・ 留 年	・ 経 済 学 部	・ 経 済 学 科	一連番号(11番) (留年のつど変わる)			

(例II) 編入学生番号(58年度3年編入)

1	3	3	1	0	0	2	2
・ 履 修 要 項 度 (81)	・ 編 入	・ 経 済 学 部	・ 経 済 学 科	一連番号(22番)			

3. 学部・学科の番号表

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏教学部	1		法学部	4	
禅学科		1	法律学科		1
仏教学科		2	政治学科		2
文学部	2		経営学部	5	
国文学科		1	経営学科		1
英米文学科		2	短期大学	8	
地理学科		3	国文科		1
歴史学科		4	英文科		2
社会学科		5	放射線科		3
経済学部	3				
経済学科		1			
商学科		2			

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次における最低および最高履修科目数は原則として次のとおりとする。

年次	新履修科目数	再履修を含む科目数
1年次	15科目	_____
2年次	5科目以上12科目以内	53年度以前入学生は制限外，それ以外は制限内
3年次	5科目以上12科目以内	53年度以前入学生は制限外，それ以外は制限内
4年次	5科目以上14科目以内	5科目以上14科目以内

イ. 課程・講座科目，随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 制限範囲内で順次履修すれば，4年次においての新履修科目は専門3科目だけとなり，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。

（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは教務部窓口で相談すること）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は原則として登録できない。ただし，同学部内で他学科の専門教育科目を特に希望する場合，または課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として，登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入の注意

授業時間表 (例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	独 語 1 G	312201	百 済	879
二時限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
三時限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
四時限	論 理 学	310203	国 嶋	429
	自然科学概論	310401	大 森	156
五時限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
(1)	1		独 語 1 G	3 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前)	3 1 4 2 0 1	長 浜	9 9 3
	3		宗 教 学 I	3 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	3 1 0 2 0 3	国 嶋	4 2 9
	5		体 育 実 技	3 1 4 1 0 1	大石(武)	1 4 1

- 楷書体で正確に記入すること。
- 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- 授業時間表のとおり記入すること。
- 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
- 再履修科目がある場合、再履欄に○印をつけること。
- 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - 時限を誤って記入した場合
 - 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
 - その他, 不明瞭に記入した場合
- 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
- 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

（経済学科）

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目 (適 用)	科 目 数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	経済学概説 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目中6または7科目を選択 社会分野 } 必修(不足の場合は2年次で履修) 自然分野 }	7
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

（商 学 科）

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目 (適 用)	科 目 数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	経済学概説 (必修)	1
5	専門教育科目	会計学総論 (必修)	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目中6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	6
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
 - ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
 - ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
 - ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
- (注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は、一切実施しない。
- 卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

Ⅲ 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・演習は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については規定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

◎正規進級

上級学年に進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。
ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

◎注意進級

正規の進級基準には達しないが、教育的配慮から進級を認める。ただし、注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上を取得するも、その内一般教育科目、保健体育科目、外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。

- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかると前に記入すること。
- ホ. 次の場合は退場を命じ、その解答を無効とする。
- (1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき
 - (2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき
 - (3) 監督者の指示に従わないとき
- ヘ. 次の場合には、その答案を無効とする。
- (1) 無記名のもの
 - (2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき
 - (3) 指定された場所に提出しないとき
- ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し、原則として書き損じても再交付しない。
- チ. 受験中に不正行為があつて、当該教授会が不正行為と認定したときは、学則第57条により懲戒する。なお、懲戒は全学に公示する。
- リ. 以上のほか、試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

1年次は学科毎にクラス制をとり、それぞれクラス主任（教員）をおいて学生の学習指導、生活相談等に当たる制度がある。ただし、58年度は実施しない。

Ⅶ 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得の課程・講座は教職課程、学校図書館司書教諭、社会教育主事の1課程2講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校・高等学校教諭の各免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭、社会教育主事の各講座は、学校教育とならんで重要な社会教育の代表的な施設である図書館、青少年教育施設などの専門職員となる有資格者を養成するために設けられているものである。

課程・講座の履修希望者は1年次の秋（11月中旬）にガイダンスを開講するので、2年次から資格取得のため科目履修を予定している者は、このガイダンスに出席し「教職課程・資格講座受講の手びき」をもらうこと。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

詳細については掲示板で発表する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名	
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
社会教育主事講座	〃

課程・講座の履修は実習の関係上、3・4年次からの登録による履修は認めない。

Ⅷ 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出、成績発表各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口にて申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在、国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

掲示板の使用区分

イ. 第1掲示板（7号館前）

公示・告示・その他連絡事項

- ロ. 第2 掲示板（6号館横）
学部別連絡事項・その他
- ハ. 第3 掲示板（6号館横）
教職・その他
- ニ. 第4 掲示板（6号館横）
研究室専用

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定，休講，授業，学籍，試験，成績，その他）は，間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは，必ず登校のうえ，掲示を見るか，関係事務窓口で問い合わせること。

Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口	
届 書	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤	
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができないときは、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	願い出により休学した者が復学する場合は、毎学年の始めとし、保証人連署の上願い出て復学の許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月初旬までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	⑦

X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) 一通 300円)
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
満 期 退 学 (見 込) 証 明 書 (博 士 後 期)	教務部⑥番	
修 了 (見 込) 証 明 書 (修 士)		
修 士 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	医 務 室	
在 学 証 明 書	学 生 部	無 料
学 割		
通 学 証 明 書		

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口へ納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講義内容目次

一般教育科目(共通).....	40
外国語科目(共通)	49
保健体育科目(共通).....	50
随意科目(共通)	54
経 済 学 部	58
教職および資格講座.....	83

講義内容目次

一般教育科目

人文分野

宗教学I(池田 魯参)	40
宗教学I(田上 太秀)	40
宗教学I(平井 俊栄)	40
宗教学I(吉津 宜英)	40
宗教学I(田中 良昭)	41
宗教学I(袴谷 憲昭)	41
宗教学I(再クラス)(奈良 康明)	41
宗教学I(再クラス)(松本 皓一)	41
宗教学II(伊藤 秀憲)	42
宗教学II(伊藤 俊彦)	42
宗教学II(黒丸 寛之)	42
宗教学II(皆川 広義)	42
宗教学II(河村 孝道)	42
哲学(国嶋一則・桑原直己)	42
論理学(門脇俊介・桑原直己)	43
倫理学(並木 康三)	43
文学(新井 章)	43
文学(三宅 武治)	43
歴史学(木槻 哲夫)	44
歴史学(立川 章次)	44
歴史学(野呂 尚生)	44
社会分野	
法学憲法(宇都宮静男)	44
法学憲法(佐々木 信)	44
法学憲法(竹花 光範)	44
政治学(小堀 訓男)	45
政治学(寺崎 修)	45
社会学(田草川僚一)	45
社会学(岩上 真珠)	45
統計学	45
地理学(宮口 侗殖)	46
地理学(玉井 建三)	46
文化人類学(加藤 正春)	46

自然分野

自然科学概論(大森 五郎)	46
自然科学概論(齋藤 浩三)	47
数学(宮寺 功)	47
数学(齋藤 浩三)	47
心理学(関田 健司)	47
心理学(重野 純)	47
心理学(茅原 正)	47

外国語科目

英会話(Pratt, T. C. Dean)	49
------------------------	----

保健体育科目

体育実技	50
------	----

随意科目

比較思想特講(窪 徳忠)	54
ドイツ語F(吾妻雄次郎)	54
ドイツ語FLL(初級)(野島 利彰)	54
ドイツ語FLL(中級)(小林佳世子)	54
フランス語F(前田 祝一)	54
フランス語FLL(初級)	
(マドレーヌ・マルタン)	55
フランス語FLL(初級)(松岡 宏一)	55
フランス語FLL(中級)	
(マドレーヌ・マルタン)	55
中国語F(前山加奈子)	55
中国語FLL(初級)(果 荃 英)	55
中国語FLL(中級)(羅 漾 明)	56
スペイン語F(佐藤攻美子)	56
スペイン語FLL(初級)	
(ホワン・ナバロ)	56
スペイン語FLL(中級)	
(ホワン・ナバロ)	56
ロシア語F(杉山 秀子)	56

ロシア語F L L(初級)	
(タチャーナ・パリーソフナ・野村)...	56
ロシア語F L L(中級)	
(タチャーナ・パリーソフナ・野村)...	56
日本語F(初級)(留学生対象)(杉山秀子)	57
日本語F(中級)(留学生対象)(杉山秀子)	57

基礎教育科目

経済学概説(大石 雄爾).....	58
経済学概説(斎藤 正).....	58

専門教育科目

1年次必修科目(商学科)

会计学総論(遠藤 孝).....	59
会计学総論(中原 章吉).....	59

1年次選択科目(経済学科)

会计学総論(飯岡 透).....	60
------------------	----

2年次必修・選択科目

経済原論(大石 雄爾).....	60
経済原論(横山 正彦).....	60
経済原論(斎藤 正).....	61
経済政策(石井 啓雄).....	61
経済史(永田 正臣).....	61
商学総論(大吹 勝男).....	61
経営学総論(寺中 良二).....	61

2年次選択科目

民法一部(雨宮 真也).....	62
憲法(斎藤 寿).....	62
商業史(山田 勝).....	63
統計原論(吉野 紀).....	63
簿記論(竹林 代嘉).....	63
財務会計論(遠藤 孝).....	63

3・4年次選択科目

民法二部(青野 博之).....	64
農業政策(浅田 喬二).....	64
価格理論(荒木 勝啓).....	64

商法一部(荒木 正孝).....	64
経済学史II(有井 行夫).....	65
会計監査論(飯岡 透).....	65
国際金融論(池田 健).....	65
労務管理(石井 修二).....	65
交通論(石井彰次郎).....	66
保険論(石名坂邦昭).....	66
商業政策(岩下 弘).....	66
経済法(江上 勲).....	66
証券市場論(柿崎 暎次).....	66
労働法(掛谷力太郎).....	67
原価計算論(金井 正).....	67
工業政策(剣持 通夫).....	67
経済地理(上坂 修夫).....	68
日本経済史(古庄 正).....	68
中国経済論(小杉 修二).....	68
アジア経済論(小林 英夫).....	68
財政政策論(里中 恒志).....	69
金融論(渋谷 隆一).....	69
税務会計論(鈴木 明男).....	69
商法二部(関口 雅夫).....	69
アメリカ経済論(瀬戸岡 紘).....	70
マーケティング(曾我 信孝).....	70
商品学(塚原 博).....	70
国際経済論(徳永 俊明).....	71
管理会計論(中原 章吉).....	71
財政学(西村紀三郎).....	71
景気変動論(西村 允克).....	72
経営管理論(百田 義治).....	72
経済学史I(福原 好喜).....	72
貿易論(古沢 紘造).....	73
銀行論(本間 靖夫).....	73
中小企業論(三井 逸友).....	73
社会政策(光岡 博美).....	73
日本経済論(森 武麿).....	74
人口論(森岡 仁).....	74
教育経済論(谷敷 正光).....	74
ソヴィエト経済論(山縣 弘志).....	74
労働経済論(山下不二男).....	75
国民所得論(吉野 紀).....	75

近代経済学(浅田統一郎).....	75	原書講読(曾我 信孝).....	78
ヨーロッパ経済論(津守 英夫).....	76	原書講読(徳永 俊明).....	78
原書講読(浅田統一郎).....	76	原書講読(百田 義治).....	79
原書講読(浅野 克巳).....	76	原書講読(福原 好喜).....	79
原書講読(荒木 勝啓).....	76	原書講読(古沢 紘造).....	79
原書講読(有井 行夫).....	76	原書講読(三井 逸友).....	79
原書講読(飯岡 透).....	76	原書講読(光岡 博美).....	79
原書講読(石井 修二).....	77	原書講読(山縣 弘志).....	79
原書講読(岩下 弘).....	77	演習 I (浅田統一郎).....	80
原書講読(大吹 勝男).....	77	演習 II (浅田統一郎).....	80
原書講読(小杉 修二).....	77	演習 II (津守 英夫).....	80
原書講読(小林 英夫).....	77	演習 III (金井 正).....	80
原書講読(斎藤 正).....	78	演習 III (津守 英夫).....	81
原書講読(瀬戸岡 紘).....	78		

一般教育科目

人文分野

宗 教 学 I

池 田 魯 参

現代の日本社会では、仏教文化や禅文化は様々なかたちで私たちの日常生活に関わっている。父性原理や母性原理を喪失して精神的指標を見失うことの心の不安から、伝統文化の見直しの気運もある。世界の諸宗教と対比しながら、文化現象として現われる「宗教」の意味を絵解きしたい。宗教の時代の到来ともいえる国際的な状況を視野にして、本学の建学の根本とされる禅仏教が、どのような問題解決の方法を示すことができるか、今後の展望を考察し、受講生諸君の自己究明と自己実現のために、人生の葉として頂ければ幸いである。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社） ￥ 1,950

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院） ￥ 1,400

宗 教 学 I

田 上 太 秀

前期は宗教としての仏教の思想と歴史をインドに限定して講義し、後期は宗教とは何かについて宗教学の立場から講義する。

〔教科書〕 田上太秀『仏教の生き方・考え方』（三修社） ￥ 1,300

〔参考書〕 田上太秀『禅の思想』（東京書籍） 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

平 井 俊 栄

宗教とは何かを概説し、未開宗教、古代宗教の特質を概観した上で、世界宗教の代表として仏教について講ずる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

吉 津 宜 英

宗教とは一体何だろうか。宗教学者の教ほど宗教の定義はあるとも言われる。確かに、この地球上には一方では唯一の創造神を崇拜している人々がいるかと思えば、他方には自覚者（ブッタ）の道に努力している人間もいるというわけで、その差異は大きい。現代に

生きる我々は先ず多様な宗教の存在する現実を認め、宗教が他の文化領域とどのように関わっているかを考えてみる必要があるのではないかと。とくに今は経済時代といわれる。そのような時代にあって宗教の直理性を改めて見なおし、人間らしさを回復することも必須の課題である。授業は教科書に沿って進めてゆくの、必ず教場に持参するようにしていただきたい。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 Ⅰ

田 中 良 昭

前期は「宗教とは何か」をテーマとして、宗教の意味、人間生活における役割、世界における宗教の諸形態、日本の宗教等、宗教現象の諸相を日常生活とのかかわりの中で考察し、後期は「仏教とは何か」をテーマとして、仏教について、その人間観、真理観、修道論等を中心に、他の諸宗教と比較しながら、その特質を明らかにしていく。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 Ⅰ

袴 谷 憲 昭

一般教養としての「宗教学」に関する知識を教授する（主として前期）と共に、日本の文化とも深いつながりを持った「仏教」についても講義する（主として後期）。最初の時間には、次の問いに答えられるかどうか考えてきて頂きたい。人は、柴又の帝釈（たいしゃく）とか、金比羅（こんびら）様と言うが、なぜそれらを「テイシャク」とか「キンピラ」とは発音しないのか。

〔教科書〕 仏教学研究室編『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗 教 学 Ⅰ（再クラス）

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 Ⅰ（再クラス）

松 本 皓 一

人間にとって宗教とは何か。その社会的意味を明らかにし、現在に生きるものの立場から宗教を考えてみる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

伊 藤 秀 憲

インドにおける禅定、中国での禅宗の成立と発展、そして日本への流伝（特に道元禅師とその門流を中心に）と言った、禅の歴史を通観し、そこに現われた禅匠たちの生き方から、禅の人生観・人間観等を考察したい。

〔教科書〕 『宗教学II』（更生社） ¥ 1,950

宗 教 学 II

伊 藤 俊 彦

禅の全体的な把握を主眼に、広く人間・社会・文化との関連に留意しつつ、講義を進める。

宗 教 学 II

黒 丸 寛 之

宗教としての仏教と禅の思想、およびその特質について印度・中国・日本の事例に基づいて概説する。

宗 教 学 II

皆 川 広 義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえてきた仏教について、教主釈尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕 山内舜雄『宗教学II』（更生社）

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関り合いとそこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

哲 学

国 嶋 一 則 ・ 桑 原 直 己

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかの自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とす

るものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

門脇俊介・桑原直己・円谷裕二

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考するべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

倫 理 学

並 木 康 三

倫理学とは、人間にとって何が善であり、幸福であるかを教え、この幸福を実現するための方法として人間が為さねばならぬ徳の実践を要求する学問である。

かかる認識の下に、本講では、古代ギリシャおよびローマの哲学、キリスト教と中世神学および宗教改革、近世哲学特に英国経験論とカント哲学、現代の実存哲学などにおける倫理学を、思想史的に講述する。

〔教科書〕 シュヴェグラー・谷川徹三訳『西洋哲学史』〔上・下巻〕（岩波文庫）

各 ¥300

並木康三『ヤスパースの哲学』（高文堂出版社） ¥ 1,000

カール・ヤスパース・並木康三訳『哲学概説』（八千代出版） ¥ 1,500

文 学

新 井 章

日本の詩歌の歴史を概括的に把握する。上代・中世・近世・近代の四つの時代に分けて考察しつつ新しい詩歌の方向をさぐる。

〔教科書〕 『小倉百人一首の世界』（三弥井書店）

〔参考書〕 『日本韻文史』（桜楓社）

文 学

三 宅 武 治

古いところでは、万葉集、古今集、奥の細道、百人一首などを扱い、近代文学では、特に詩について、詩人伊東静雄を中心に講義します。

〔教科書〕 『伊東静雄——その人生と詩』（花神社） ¥ 1,800

『限りある生命を』（花神社） ¥ 1,350

〔参考書〕 『二十歳になるあなたに』（花神社） ¥ 1,300

歴 史 学

木 槻 哲 夫

幕末・明治期の日本史上の問題点のいくつかを紹介しつつ、日本社会の発展について考察したい。教科書は特定しない。

歴 史 学

立 川 章 次

十九世紀中葉の我国は、封建制の動揺と尊王思想の発達という二つの内的要因が、時を追ってその比重を増し、新しい時代の到来を次第に色濃く予感させるようになった。そこへ突如として加わるのが、欧米諸勢力の圧迫という外的要因である。米国は開国を要求する一方では琉球、小笠原島の占領を謀り、南下の露国は軍事基地を求めて対馬を狙い、英国・仏国は対日勢力の扶植に狂奔する。我国は、まさに存亡の危機に直面したのである。この時、尊王論は攘夷論と結合して、まず封建国家の余命を断ち、そして欧米諸勢力に拮抗できる近代国家形成への方策をめぐらし、これに成功していく。この過程こそ、実に明治維新の本質として捉え、『明治維新史』として講義する。

歴 史 学

野 呂 肖 生

歴史学とはどういう学問で、われわれにとってどのような意味をもつのか、それを身近な問題に素材を求め、具体的に考えてゆきたい。

社 会 分 野

法 学 憲 法

宇都宮 静 男

日本憲法の基本原理を中心として、重点的に憲法法理を解説する。

〔教科書〕 宇都宮静男『憲法新講』（新有堂） ¥ 2,000

法 学 憲 法

佐々木 信

本講は、いわゆる近代法学の基本的部分の理解、および近代法学において把握されている人間生活像の概観の理解を目標とする。専攻する学問の如何を問わず学問としての法学は学ばれるべきであるという主張を基本とするものである。

〔教科書〕 拙著『法学(上)』〔改訂版〕(成文堂)

法 学 憲 法

竹 花 光 範

一年をほぼ二分し、前半は「法学」の講義、後半は「日本国憲法」の講義を行う。

教科書・参考書は講義の中で述べる。

政治学

小堀 訓 男

「人間は、なぜ集団社会を形成し、そのなかに所属しようとするのか。」という問題意識をもって、政治の本質を考察する。

〔教科書〕 開講時に指示する。

政治学

寺崎 修

現代政治の理解を深めるために、政治学の基礎理論ならびに政治学上の諸問題についての解説をおこなう。適宜、具体的事例をとりあげ、わかりやすい講義となるように心がけるつもりである。

〔教科書〕 寺崎ほか共著『基礎政治学』（北樹出版）

社会学

田草川 僚 一

社会学は様々な社会現象を研究対象とし、それを人間（個人）＝集団＝社会の相互のかわりに遡及して考察する「社会科学」の主要な研究領域である。

本年度は、まずそれを考えるに当たっての社会学独自の基礎的な概念枠組と、それに基づく主要な一般理論及び特殊理論に触れ、つとめて現代社会が当面する現実の諸問題にかかわらせながら講義を進めてゆく予定である。使用するテキストは下記の通りであるが、具体的な講義内容に則した必読文献、参考文献に関しては、講義の進行にあわせて別途指示することとする。

〔教科書〕 安藤・兎玉編『新版 社会学概論』（学文社）

〔参考書〕 安藤・兎玉編『わかりやすい社会学』（学文社）

高尾・橋爪編『社会学の基礎』（犀書房）

社会学

岩上 真 珠

なぜ私たちは大学に入り、就職のために悪戦苦闘するのか。また、なぜ結婚し、家族をつくるのか。友だちをつくったり、友だちと別れたり、またある時には二人の人間のあいだで悩んだり苦しんだりするのか。多くの人々とかわかりあって生きているわれわれの行動について一緒に考えてみたい。

〔参考書〕 授業中、適宜指示する。

統計学

第I編 記述統計

1章 度数分布, 2章 平均, 3章 散布度, 4章 歪度, 5章 尖度, 6章 指数,
7章 時系列, 8章 相関関係

第Ⅱ編 推測統計

1章 母集団と標本, 2章 標本抽出法, 3章 統計的仮説の検定, 4章 統計的推定
第Ⅲ編 統計図表

地 理 学

宮 口 侗 廸

前期は都市に関する基本的理解を深めることを目的とし、都市の起源、発達史、かんたんな都市理論の紹介などを行なう。後期はそれをふまえて、世界有数の大都市である東京を、地理学の立場からどのように理解するかについて講義する。図を通しての理解が不可欠なので、特に講義用教材（¥ 1,000程度）を作成し、使用する。

地 理 学

玉 井 建 三

本年度は都市機能、都市化と農業、遠隔地域の経済・文化圏の設定、地域を結ぶタオ・タワの役割、近世の物産と地域史（誌）、武蔵野の開発、中国西域の自然環境、中国東部の地形発達史、アジアの気候変化について講義をする。

文化人類学

加 藤 正 春

文化人類学の基本的な概念、研究方法、課題などを講義する。できるだけ具体的な事例をあげながら、社会組織や宗教、世界観、文化変化その他の人類生活の諸側面を検討する。とくに、現在実態調査をこころみている沖縄や本土の民俗社会の事例も紹介し、人間と文化にかんするいくつかの具体的問題を考えてみたい。

参考文献は講義中に適宜指示する。

自 然 分 野

自然科学概論

大 森 五 郎

自然科学を基盤とする近代文明の発達は、地球上の資源の枯渇と各種の産業公害並に環境破壊による生態系の変貌をももたらし、今や人類の生存すら脅かすに至っている。本講義においては現代自然科学と各種産業技術との関連、資源枯渇と代替資源の開発、新資源の発見とその活用並に海洋開発等について述べ、併せて公害問題にも論及する。

自然科学概論

齋藤浩三

資源、エネルギー、環境汚染など社会生活や経済活動と密接に関連する諸問題、ないしは、わが国科学技術の展望など今日われわれの身近にあるテーマをとりあげて講義する。

数 学

宮寺 功

教科書に沿って微積分学の考え方の大要をわかりやすく解説する。

〔教科書〕『改版 大学の数学』（東京教学社）

数 学

齋藤浩三

今日の情報化社会において、主要な役割りを演じているものは数字とくに統計数字である。各種の情報を的確に判断し、また少数の資料から全体をおしはかるには統計的手法が必要である。調査資料の集計と整理、集団の特性、相関、分布、検定、推定、標本調査など統計の基本事項について具体的な例題を示して講義する。

心 理 学

園田健司

人間の生命維持には生理的動的平衡が不可欠であるが、この平衡が意識下で処理しきれなくなると外界に働きかけることによって平衡を保とうとするための動因としての欲求が意識にのぼってくる。然し、現代のようにインベーション化し、複雑多岐に亘っている社会では、すべてその欲求を充足してくれるとは限らない。従って、人間は時には self control をすることによって社会に適応することになる。そのために、心理学は人間の有機的社会的側面をベースに心理的側面を考えていかねばならない。そこで、本構義はこのような生理的・心理的メカニズムをもった人間について、現代心理学が扱っている領域の面から各論的に講じてみたい。

〔教科書〕『心理学概論』（八千代出版）

心 理 学

重野 純

心理学の基礎的知識を習得すること、および行動科学としての心理学的考え方を理解することを目的とする。講義は実験例の紹介を中心とし、知覚・学習・社会的行動等ほぼ全般にわたって概説する。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）¥ 1,400

心 理 学

茅原 正

「人とは何か」は永遠の問題である。心理学は、人は何をいかに感じ、考え、行なうか

ということ、すなわち、人間の心とあらゆる行動の原理法則を明らかにすることによって、この問いに答えようとする科学である。人間は本来、自然的存在であると同時に社会的・文化的な存在であり、心理学は、まさに人間活動の全領域を研究の対象とするものである。

本講では、現代心理学の主要な理論を平易に説明し、学生諸君が、複雑なる人間関係にある自己や他人を理解するための指針を得るよう、ともに学んでゆきたい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版） ￥ 1,500

外国語科目

英 会 話

Pratt, T. C. Dean

English conversation necessary for everyday life. Native speaker word-group sound. Also discussion on current life, Japan and the world.

保健体育科目

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技（玉川体育館）

宮沢 栄作・長浜 友雄
牧野 茂・光永 吉輝
田中 佳孝・村松 誠
秋田 浩一

バレーボール，バスケットの基礎技術の習得とともに，ゲームにより，その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操（玉川体育館）

三 幣 晴 三

マット，鉄棒などを中心に，初心者を対象とした遊戯的内容から出発し，段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング（玉川体育館）

高橋 俊介・館岡 儀秋
秋田 浩一・武藤 幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し，主に最新のトレーニング器械を使用した体カトレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進，内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ。

柔道（玉川体育館）

光 永 吉 輝

初心者を対象として基本技能（受け身），応用技能（投げの形）（固の形）等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣 道（玉川体育館） 上山 智 身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
 2. わざ
 3. 懸り稽古, 互格稽古
 4. 試合稽古
- 服装・試験については最初の授業において説明する。

空 手 道（玉川体育館） 大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技（空気を相手に、受、突、打、蹴技の反復練習）
2. 形（基本技の受、突、打、蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う）
3. 護身術
4. 約束基本組手（基本技で取得した、受、突、打、蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手）

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相 撲（玉川体育館） 館 岡 儀 秋

基本技（攻の型・守りの型）の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸 上 競 技（玉川グラウンド） 森本 葵・館岡 儀秋

駒大式四種競技（100米、長距離、砲丸投、走高跳）を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソ フ ト ・ ポ ー ル（玉川グラウンド） 太田 誠・森本 葵

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サ ッ カ ー（玉川グラウンド） 原山 良勁・田中 良佳
秋田 浩一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。

服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンド・ボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。

服装は、トレジャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テ ニ ス（玉川グラウンド）

長浜 友雄・牧野 茂

田中 佳孝・浅野 鉦世

嶋田美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装（白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓 球（玉川校舎）

長浜 友雄・高橋 俊介

嶋田美津子

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太 極 拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体の健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：世田谷区宇奈根1-1-1（学生手帳を参照）

TEL (709) 0717

再履修生科目〈本校〉

室 内 球 技（本校体育館）

宮沢 栄作・原山 良勁

基礎技術の習得とに併せて、ゲームにより、その競技を理解する。（バレーボール、バスケットボール、その他）

服装：一般的運動服装、上履用運動靴。

空 手 道 (本校第二体育館)

大 石 武 士

拳禪一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。服装はと原則して空手道衣着用のこと。

剣 道 (本校第二体育館)

上 山 智 身

剣禪一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。
服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

(1) 本校体育館：本学内、男子更衣は三階東側スタンド。(ステージに向い左側) 女子は三階西側の更衣室。(ステージに向い右側)。

TEL (418) 9517・9213

(2) 本校第二体育館：本校内、相撲道場の隣、一階は柔道場、二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。

TEL (418) 9201

随 意 科 目

比較思想特講

窪 徳 忠

ある思想や宗教、広くいって文化が、別の文化と接触した場合には、外来の文化が変容して固有の文化に類似した形をとる一方、固有文化もまた多少の変容を起こす。また、外来文化に接した人々は、自分たちの思考の枠に照らして、その枠内の文化は受容し、枠外の文化は受容しないように考えられる。このことについて、中国や日本などの東アジアを中心に、具体的な例をあげて論じてみたい。場合によっては、スライドを使用する。

〔教科書〕 使用せず、私のノートによる。

〔参考書〕 『中国宗教における受容・変容・行容』（山川出版社） ￥ 4,200

『中国文化と南島』（第一書房） ￥ 2,500

ドイツ語 F

吾 妻 雄次郎

主として2年次までドイツ語を学んだ学生を対象に、Bredel, Hermlin, Seghers, Wolf等の現代作家の短篇を通じて、読解力を養い、ナチ支配下のドイツの作家たちが、現実をどのように捉え、どのように将来に希望を繫いでいたかを識る緒にしたい。

〔教科書〕 教材は授業の際に指示する。

ドイツ語 FLL (初級)

野 島 利 彰

耳と口と眼を使って現代の生きたドイツ語を学ぶことを目的とする。正しい発音および基本的な文型や語彙を身につけ、日常会話の能力を養うようにしたい。

ドイツ語 FLL (中級)

小 林 佳 世 子

活字としてのドイツ語よりも、音声としてのドイツ語に触れ、意志の疎通の基本的な条件である聴き取り能力を養成することを主眼とする。出来るだけ多様なテープを聞き、また、ビデオテープをも用いて様々な生きたドイツ語に親しめるようにしたい。なお、受講者は1年次のドイツ語(1G・1R)を終えていることが望ましい。

フランス語 F

前 田 祝 一

「フランス女流文学史」(19世紀)。主としての女流詩人の詩を中心に読み、講義する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

テキストを使ってやさしい会話、初めの時間にテキストの説明をし、次の時間にテキストに従って会話する。

- テキストの復習をよくすること。
 - 間違いを恐れずに活発な発言をのぞむ。
 - 松岡先生の会話のクラスを併せて履修することがのぞましい。
- 〔教科書〕 教場で指示する。

フランス語 FLL (初級)

松岡 宏一

L L部に備えてある HACHETTE 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使用して講義をすすめます。耳の訓練に重きをおき、こちらの設問に適宜な反応を示せるよう指導いたします。この教科書にはスライドと音声がついておりますのでこれを十二分に活用し、効果をあげたいと念じております。

生徒諸氏に望みたいことは、L Lだけではなく、同時に他のフランス語正課にも出席していただきたいです。

〔教科書〕 「LE FRANÇAIS ET LA VIE」 (HACHETTE)

フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

「仏語FLL」(初級)を終えた者、またはそれと同程度の学力のある者を対象に、それ以上の会話の力を修められるよう指導する。

〔教科書〕 教場で指示する。

中国語 F

前山 加奈子

基礎的な文法を修得した3年次生以上を対象とします。現代作家の短篇を教材にして、中国語の特長をおさえ、文法的にも更に深めていきたい。又、作品を通して中国社会への認識を深めるようにしたい。

〔教科書〕 丁玲、列心武などの作品、開講時に教場で指示、配布します。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材(ビデオテープ)を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。(無料)

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語 FLL 初級を終えたもの、又はそれに準ずるもの(正しい発音をマスターしたもの)を対象とする。高度な中国語会話力を身につけることを目的とする。映画や放送録音等を教材として使用し、学生諸君と楽しく勉強を進めたいと思う。

〔教科書・参考書〕 教室で指示します。

スペイン語 F

佐 藤 玖美子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指しており、特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思う。

テキストは受講者の程度によって、適当なものを選ぶ予定。

スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドを見ながらやさしい日常会話を勉強します。

スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 LL 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象とする。

ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語 FLL (初級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 FLL (中級)

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日 本 語 F（初級）（留学生対象）

杉 山 秀 子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦勞しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日 本 語 F（中級）（留学生対象）

杉 山 秀 子

日本語Fの初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

—— 一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎教育科目

経済学概説

大石雄爾

現代世界には、資本主義社会と社会主義社会というその運動法則を全く異にする2つの社会が存在する。これら2つの社会は全く無関係に存在するのでもなければ成立したのではない。われわれがその中で生活しているところの資本主義社会も人類社会の発展過程で成立したものである。資本主義とは一体どんな法則の支配する社会なのか、それはどのような歴史的立場づけを与えられるのか。本講義では、資本主義にいたるまでの人類社会の発展について概説し、あわせて資本主義社会の運動法則の解明を課題とする経済学の性格について言及する。

〔教科書〕 金子ヘルオ『資本主義の原理と歴史』（青木書店）

〔参考書〕 杉原四郎他編『科学としての経済学』（有斐閣）

経済学概説

斎藤 正

講義の目的は「経済学への誘い」である。講義では出来るかぎり豊富に身近な経済現象をとりあげながら、それがなぜ経済学上の問題であるのか、また経済学がどのような方法でそれに接近しようとするのかを説明しながら、経済学的思考（社会科学としての経済学）の特徴を理解することに重点をおく。

〔教科書〕 とくに指定しないが、伊東光晴・佐藤金三郎『経済学のすすめ』（筑摩書房）

〔参考書〕 清水正徳『働くことの意味』（岩波新書）

大塚久雄『社会科学入門』（岩波新書）は、是非読んで頂きたい。

専門教育科目

1 年次必修科目（商学科）

会計学総論

遠藤 孝

「会計学」なるものを全然習ったことのない諸君も「簿記・会計」という言葉ぐらい聞き、知っているとおもう。とくに商学科に入学した諸君は、かなり専門的に簿記・会計を学んでみたいという希望をもっているとおもわれる。

会計、とくに企業会計は一般に企業活動、とくに財務活動を一定の形式、内容において計算把握し、それを企業の利害関係者に知らせるものとして、あるいは企業活動を計算把握することによって経営に役立てるものとして理解されている。そして企業活動を計数的、技術的に把握するものとして複式簿記があるわけである。

しかし重要なことは会計は企業活動を計数的に把えるといわれているけれども、企業活動をそのまま、事実どおり、把えるものでもないし、把えられるものでもない。そこには会計以外の社会的要因が伴ない、今日、会計は個別企業の活動を把えるという以外に社会的性格を帯び、その性格は複雑なものとなっている。ただはじめて会計学を学ぶ諸君には、こうした問題はやや難しいとおもわれる。

この講義では会計、とくに企業会計とは何か、企業活動を把える技術的手段である複式簿記の構造、その記帳方式を理解せしめ、企業会計を規制する諸制度の概要、財務諸表についての概要などについて、2年次以降の会計学関係の科目の基礎として総論的に講義し、折にふれ会計の社会性について関心をよびおこしたいとおもっている。

教科書、参考書などについては講義の最初の時間に指示する。

会計学総論

中原 章吉

会計学とは何か、展望台から眺めるように、会計学的全領域を概観して、その基礎から検討していこうというのがこの科目の目的である。従って、会計学の意義、歴史から始めて、簿記や原価計算の技術面といった技術的基礎を説明し、その上にたって、財務会計と管理会計という2つの領域をみていく。財務会計に属する、いわゆる企業の利害関係者に対する報告のための会計と、管理会計に属する、いわゆる企業の経営管理者のための会計を説明してから、会計の監査についても概要をみたいと考えているし、会計学では企業を対象とする企業会計が中心となるが、社会会計との関連も考慮していきたい。

〔教科書・参考書〕本年度最初の講義時間のときに明示する。

1 年次選択科目（経済学科）

会計学総論

飯 岡 透

本講義は1年生を対象として、会計学の基礎的な理論と技術を総合的かつ体系的に取扱うことを目的としている。すなわち、会計の意義と役割、会計学の研究領域、会計の歴史、現行の企業会計制度などを概説したのち、企業会計の計算構造の基礎をなす複式簿記のメカニズムをとりあげ、その原理と基本的な手続を修得させ、簡単な貸借対照表と損益計算書を作成できる能力を養成する。

本講義は2年生以上で履修する簿記論、財務会計論、原価計算論、会計監査論、管理会計論および税務会計論など会計学関係の諸講座の前提科目となるものである。

〔教科書〕 最初の授業で指示する。

〔参考書〕 『企業会計諸則集』（同文館）

2 年次必修・選択科目

経済原論

大 石 雄 爾

資本主義経済の一般理論および独占資本主義の理論について講義する。

- I (1) 資本の生産過程
- (2) 資本の流通過程
- (3) 資本主義的生産の総過程
- (4) 産業循環と恐慌
- II (1) 自由競争から独占への転化
- (2) 独占資本主義の経済構造

〔教科書〕 島恭彦他編『新マルクス経済学講座1—マルクス経済学入門』（有斐閣）

経済原論

横 山 正 彦

経済原論は、経済科学の現在到達している理論水準の概要を全体にわたって説明する総論部分に当たる。このことは、各論部分への Introduction の役目を担っていることを意味している。

しかし、経済科学は、他の諸科学に比べて、諸説が並存し、甚だしく錯綜している。片寄ることなく、序論—生産論—交換論—分配論—経済発展論の順で、説明を進めていく。

〔教科書〕 横山正彦『経済学概論』（有斐閣） ¥ 530

経済原論

齋藤 正

1. マルクス『資本論』を中心とした経済学の体系
2. マルクス体系とケインズ体系との相違
とりわけ、「投資」概念、「利潤」概念について
3. 現代資本主義論への接近

〔教科書〕 富塚良三『経済原論』（有斐閣）

〔参考書〕 川口弘『ケインズ一般理論の基礎』（有斐閣）

経済政策

石井啓雄

この講義では、客観的過程たる経済過程と経済政策の主体たる国家の間の基本的関係をふまえて、第一に、資本主義社会における経済政策の展開を発展段階と関連づけて講義する。その上で第二に、主として日本の現実によりながら、現代における経済政策の主要問題について講義する。

講義はノートにより、口述を中心とするが、参考書・必読文献等については、最初の講義の際および講義の進行状況に応じて随時指示する。

経済史

永田正臣

資本主義の成立・発展について、それが典型的になされたイギリスに基づいて講義を行う。資本主義は産業革命を画期として本格的に展開する。講義では産業革命に重点をおき、それに先行する発展段階において、産業革命成立の歴史的諸条件がどのように生成されるか、さらに産業革命を画期として資本主義がどのように質的变化をとげるか等々、資本主義発展の法則性に即して話を進めたいと思う。なお日本との比較にも留意したいと考えている。

〔教科書〕 永田正臣『イギリス産業革命の研究』〔改訂版〕（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 M. ドップ・京大訳『資本主義発展の研究』（岩波書店）

商学総論

大吹勝男

現代資本主義社会に生起する流通・商業にかかわる経済的諸現象を科学的に分析・解明するために必要不可欠な理論の理解に務め、そのうえで戦後日本の商業構造を考察し、更に戦後政府の流通政策について検討を加える。テキストは特に使用しないが、参考文献については講義のなかでその都度紹介する。

経営学総論

寺中良二

本年度の私の講義では、企業論の中でも、自主管理社会主義企業を中心としてその経済

理論的側面について講義を展開する。資本主義企業，なかでも株式会社，それに社会主義
国有企業については，自主管理社会主義企業との関連・対比によって講義のなかで触れた
い。

(注意) 本年度後半は在外研究でユーゴへ出張しますので，この期間中については代講
の先生として井出正章先生を予定しています。後半の講義では，おそらく経営学
領域の中で，担当の先生の得意な研究領域を中心として後半の講義が行われるこ
とでしょう。講義内容は前半と後半とでは当然違い，それぞれ別々に試験が行わ
れます。しかし4単位の成績判定に際しては，2単位ずつの分離評価は行わず，
両方の成績を総合して4単位が一括して与えられますので履修学生は注意して下
さい。(総合算出の方法は単純平均によらずに，原則として，よい方の成績に比
重を置いた中間評価値が算出される予定です)

2年次選択科目

民法一部

雨宮真也

民法のうち，総則・物権・担保物権の分野を講義する。

とくに，民法総則の分野においては，法律を学ぶうえで最も基本的な多くの考え方が現
われてくる。たとえば，法律行為(契約も手形行為も法律行為の一種である)とは何か，
その成立・不成立，有効・無効などについての考え方である。

3年次以降において，民法Ⅱ・商法・経済法など法律科目を履修しようとする者は，法
律学の基礎を学ぶという意味においても，民法Ⅰを履修しておくべきである。

〔教科書〕 雨宮真也外二名共著『民法読本Ⅰ(総則・物権・担保物権)』(高文堂出版社)

¥ 1,580

憲法

斉藤 寿

この講義は，憲法の「しくみ」と「はたらき」について，経済学部の学生向きに，興味
深い講義を続けながら，楽しく行ないます。

前期には，「人権の“しくみ”と“はたらき”」について，後期には，「統治の“しく
み”と“はたらき”」について，講義します。

これらの前・後期の講義は，一年を通じて，極めてユニークに，そして楽しい雰囲気の中
で行なわれます。

〔教科書〕 拙著の中から，開講の際，選択・指定します。

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。対象とする時代は西欧については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 山田 勝『近代イギリス貿易経営史』（創成社） ￥ 2,000

統計原論

吉野 紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に当て、現実の経済現象から採られた経済データを用い、経済分析との接合に意を尽したい。

〔教科書〕 『現代統計解析』（芦書房）

簿記論

竹林代嘉

会計学総論で習得した複式簿記の知識を基礎に、特殊売買や株式会社会計など商工会議所検定試験2級程度までを講義する。同時に受講者には、演習問題による訓練が要求される。

〔教科書〕 最初の授業で指示する。

〔参考書〕 『明解簿記2級商業簿記』（国元書房）

財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。逆にいえば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性質、内容などについて講義する。

1年次「会計学総論」を履修し、3・4年次で会計学関係の科目を履修していこうとする諸君は、1年次の積上げとして、3・4年次科目の基礎として履修することを期待したい。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

3・4年次選択科目

民法二部

青野博之

民法典のうち、第三編「債権」を本講義の対象とする。主として、契約法・不法行為法を取り扱う予定である。

〔教科書〕 我妻栄・有泉亨著『第三版 全訂 民法2 債権法』（一粒社）

農業政策

浅田喬二

本年度は、旧植民地（台湾、朝鮮、「満州」）における日本人土地所有の検討を行う。日本人地主は植民地農村の民族的・階級的支配者であり、また、日本帝国主義が植民地を支配するための社会的支柱であった。講義の重点を、(イ)日本人の地主化過程、(ロ)小作制大農場の経営内容、(ハ)日本地主制の植民地型の特質、(ニ)日本農業と植民地農業の関係、(ホ)日本ファシズムと農業農民問題、(ヘ)満州農業移民、の解明に置く。

参考文献は、講義の最初の時間に知らせる。

〔教科書〕 浅田喬二『日本帝国主義と旧植民地地主制』（御茶の水書房） ¥ 2,500

価格理論

荒木勝啓

価格理論における2大問題にテーマを限定して話をすすめていきたい。第1の問題は価格と貨幣の問題である。一般均衡論を頂点とする価格理論は、現実の経済が貨幣経済であるにもかかわらず、貨幣の存在しない物々交換という前提のもとに理論構成がなされている。しからば貨幣とは何故存在するのか。また貨幣価格はどのようにして決定されるのか。こうした問題を考える糸口を与えてみたい。第2の問題は価格と分配の問題である。経済が同質的体系でない場合、価格は分配に対して独立ではなく、その結果価格のパラメーター機能という考え方が崩壊する。そこから端を発して、最終的に価値と価格の間の関係が現段階でどの程度まで理解されているかまで論及したい。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に指示する。

商法一部

荒木正孝

本講義は、商法総則と会社法を対象とするが、年間の講義時間の制約上、現代資本主義社会において我々の経済生活に重要な影響を及ぼしている株式会社制度について、その法的側面を規制し、その生成、機能、構造等を規律する株式会社法を中心に説明をする。

本講義を選択する者は、2年次において民法一部を履修済みであり、かつ3年次以後において民法二部を履修していることが望ましい。なぜならば、商法は民法の特別法の一つ

であり、民法上の制度や考え方を前提として成立しているからである。

〔教科書〕 開講時に指示する。

経済学史Ⅱ

有井行夫

主としてカール・マルクス以降の経済理論の発展を、現代を解き明かす視点の確立という観点から追跡してみます。市民社会の政治的国家からの分離という歴史的事実にもとづいて、経済学が学として自立したこと、認識方法の2つの選択可能性にしたがって2流派に分化し純化したこと、マルクスの試みが成功したことの意味、20世紀以後の市民社会の構造変化を解き明かす観点はどのようなものであるべきなのか、等について論じます。

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 『資本主義の原理と歴史』（青木書店） 『マルクス・著作と思想』（有斐閣新書） 『ヒルファディング・金融資本論入門』（有斐閣新書） 『限界革命の経済思想』（有斐閣新書）

会計監査論

飯岡透

財務諸表監査の目的は企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することである。

本講座では、主要国の監査制度の概要、監査担当者、個別財務諸表・中間財務諸表・連結財務諸表の監査手続および監査報告書などについて検討を加える。

さらに最近問題になっている粉飾問題についても言及したい。

〔教科書〕 飯岡透『株式会社社会計監査論』（創成社） ￥2,900

国際金融論

池田健

拙著国際金融論により国際金融の理論を講じ、なお必要により時事問題を解説する。

〔教科書〕 池田健『国際金融論』

労務管理

石井修二

労務管理とは、企業の維持・存続・発展のために展開される経営者活動の中心的領域をなすもので、直接的には雇い入れた従業員、労働者から最大限の労働能率を引き出すことを目的として展開される理念・理論・技法の総体を指す。この講義では、労務管理実践として行なわれているものの経済理論的基盤についての考察と労務管理実践の主体である経営者・管理者の依拠している認識・考え方についての考察を行なう。特に後者に重点を置き、経営主体による労務管理実践の検討を通じて現代社会のはらんでいる問題状況の一端を一緒に考えてみたいと思う。

〔教科書〕 副田・原田編『経営労務論』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 奥林他著『労務管理入門』〔新書〕（有斐閣）

交 通 論

石 井 彰 次 郎

交通の概念規定から始まり、資本主義経済における交通資本の本質・形態を論じ、更に政府による交通事業規制に触れる。

〔参考書〕 『企業規制論』（白桃書房）

保 險 論

石名坂 邦 昭

近年生命保険契約は2億2,646万件、642兆8,514億円であり、国民所得に対する比率は56年末302.9%と約3倍で世界有数の生保普及率を誇っている。また損保分野においても大正3年に生まれた自動車保険がわれわれの日常生活に欠くことの出来ないものとなっているにもかかわらず保険に対する知識は非常に少ない。保険が重要な役割を社会において果たしている割に保険認識が低い。そこで本講義においては、理論、歴史、政策を学び各論に進み、保険全般にわたり知識を深めさらに外円としてのリスク・マネジメントを考察する。

〔教科書〕 『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房） ￥2,500

〔参考書〕 『保険総論』（法律文化社）

商 業 政 策

岩 下 弘

わが国に於ける主として戦後の流通政策の展開過程と小売商業調整システムを、中小小売商と消費者に視点をすえて検討する。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 必要に応じて指示する。

経 済 法

江 上 勲

資本主義の高度化した段階において見えざる手の導きによる国民経済の自然的調和が達成しがたくなった状況に対応し、資本主義の基本法である市民法を補完し、基本的に市場経済を維持しながら国家の経済への干渉により経済の全体的調和をはかるための一群の法が経済法である。本講義は、かかる経済法の意義と特色を明らかにしたのち、経済法の主体を成す独占禁止法の概括的内容を具体的事例を引用しつつ説明する。

〔教科書〕 江上 勲『経済法・独占禁止法概論』（税務経理協会） ￥3,000

〔参考書〕 開講時に指示する。

証 券 市 場 論

柿 崎 暎 次

下記事項を中心に、証券とその市場システムを解説する。

1. 国民経済と証券市場
2. 証券市場の歴史

- | | |
|----------------|-----------------|
| 3. 株式市場（発行・流通） | 4. 公社債市場（発行・流通） |
| 5. 証券取引所 | 6. 証券会社 |
| 7. 投資信託 | 8. 証券金融 |

〔教科書〕 『図説 日本の証券市場』〔58年度版〕（財経詳報社）

〔参考書〕 『新版 証券市場論(上)(下)』（千倉書房）

労働法

掛谷 力太郎

本年度は概ね次の項目の講義をおこなう。

1. 労働法生成発展の歴史
2. 労働法学の発展過程
3. 現行労働法の問題点
4. 近代的労働法と経営参加の法理
5. 公共部門労働者の労働基本権
6. 社会制度と労働法

資本主義社会と社会主義社会の労働法比較

〔教科書〕 掛谷力太郎『労働法理論と労働管理の法理』（高文堂）

原価計算論

金井 正

我国の「原価計算基準」にならって、実際原価計算、標準原価計算、直接原価計算について解説する。なお、特殊原価調査などを含めた広義の原価計算についても、時間の許す限り触れたいとおもう。計算演習は、理解のうえで必要とおもわれる最小限度に留めたい。

〔教科書〕 諸井勝之助『原価計算講義』（東京大学出版会） ￥ 1,800

工業政策

剣持 通夫

戦前、戦後の世界主要産業の形成、構造、発展および衰退に関する歴史的、経済的諸条件と諸過程を明らかにし、その産業を動かす本質を学びながら、経済発展の法則を体系的に知るといふ工業経済論を主体とし、将来の産業構造の在り方を研究するものである。その講義内容は、第1章 工業経済の意義（産業経済の意義、産業構造、産業組織、市場構造、価格理論、寡占理論、産業理論）。第2章 世界主要産業の成立と発展。第3章 世界主要鉄鋼業の成立と発展。第4章 転換期の世界経済と産業構造の変化。以上を講義案によって実施するが、参考文献はその都度指示する予定である。

〔教科書〕 『工業経済論』など。

経 済 地 理

上 坂 修 夫

経済地理は、経済諸現象の地域的分析を行う学問である。この講義では、経済現象をいかに地域に即して見るか、また、各地域をいかに全体の経済的構造の中で捉えるかという目を養うことをめざしながら、具体的な各地域の経済的变化と現状の分析を通じて経済現象の地域的構造について学習していく。特定のテキストは使用しないが、参考文献についてはその都度指示する予定である。

日 本 経 済 史

古 庄 正

日本経済史の研究対象は広範であるが、本年度は産業革命期の諸問題を中心に講義してみたい。

講義要綱

- (1) 産業革命の本質と類型
- (2) 帝国主義世界体制の確立と経済政策
- (3) 産業革命の展開とその特質
- (4) 産業構造と外国貿易
- (5) 地主制の確立
- (6) 労働者階級の成立と初期労働運動
- (7) 植民地圏の確保と帝国主義への転化
- (8) 天皇制国家の確立
- (9) 独占段階への移行

〔参考書〕 石井寛治『日本経済史』（東大出版会） ¥ 1,900

中 国 経 済 論

小 杉 修 二

中国の人口は10億人である。即ち、世界の4人に1人が中国人である。この国は社会主義を標榜し、超大国たらんとする隣国であることによって、世界の中で一定の位置を占め、我国との関係も少なくないものがある。

本講義では中国のめざしてきたものと中国经济の実態について論じるが、本年度は、中国の社会主義建設が、ソ連モデル、毛沢東モデル、「中国モデル」と三転してきた、その各々の特徴について論ずる。また、それらのモデルが採用され、変遷してきた理由を ①中国の採用した国家目的、②歴史的條件、③地理学的條件、の3つの組合せとその変化から説明する。

〔教科書〕 開講時に指示する。

ア ジ ア 経 済 論

小 林 英 夫

今年、日本とアジアの関連を思想史面から論ずる。石原莞爾、北一輝、井上日召な

ど、日本とアジアの関連を模索した思想家を検討する。後期は、その思想の実態面を分析するため、日中戦争後の日中関係を検討する。

財 政 政 策 論

里 中 恒 志

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。近代経済学の発展とともに、財政学にもそれをとり入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてそれに基づく財政政策は重要な経済政策の1つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその論理を検討するとともに、公共支出政策、公共収入政策についてそれらの基本的な理論及び基準を紹介し、現実の政策に対する判断力を養う。また国民が財政政策の意志形成に参加する方法は民主主義的手続をとおしてであるから、適切な政策の実現のために国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について考察する。

〔参考書〕 山口忠夫他訳『G. シュメルダース財政政策』（中央大学出版部）

金 融 論

渋谷 隆 一

金融論は、信用論を基礎としながら、資本主義の発展段階に応じて信用形態、制度、政策がどのように変化するかを究明する学問である。

本年度は、金融制度とりわけ銀行および庶民金融制度を取り上げる。もっとも金融制度といっても、先進国と後進国とはその発展の態様を異にする。そこで先進国イギリスと後進国ドイツ、日本の相違を念頭におきながら、その性格と機能の変化を中心に講義を進めてゆく。

〔教科書〕 教場で指示。

税 務 会 計 論

鈴木 明 男

税務会計の基本的課題は課税所得および租税負担額の算定である。ところで課税所得は租税特有の理念に左右され、本来の経済計算である会計上の利益や商法上の利益とは内容が異なっている。講義では、租税特有の理念とそれに導かれる課税所得の計算構造、そして課税所得と企業会計および商法会計との関連と違いを研究する。次いで、租税は個人と法人の双方に係ることから、個人の所得への課税を取扱う所得税と、法人の所得を取扱う法人税の具体的内容に立入る。

〔教科書〕 赤岡研一・鈴木明男共著『基本税務会計』（税務経理協会）

商 法 二 部

関 口 雅 夫

商法Ⅱは、商法学のうち、「商行為法」および「手形小切手法」を、主要な対象としている。

本講座は、平易を旨とし、商法Ⅱを、論理体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識の修得を目的とする。

〔教科書〕 野津 務『商法講義』〔商行為法〕（中央大学生協出版局）

野津 務『商法講義』〔手形法・小切手法〕（中央大学生協出版局）

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

現代資本主義世界の支柱としてのアメリカの経済事情をわかりやすく解説する。その方法は、現代アメリカ経済をできるだけひろい視野からとらえていこうとするところにある。たとえば、歴史的には植民地時代いらいの特徴を検出し、部門的にはあらゆる領域を考察の対象にしてみるとか、単にアメリカにかぎらず世界全体のなかでこの国を位置づけてみる、など。そうすることによってえられたアメリカ資本主義の現段階の特徴をもとにアメリカ金融資本の実態、いわゆる「多国籍企業」の動態、経済と国家や軍部との関係、労働者や民衆の生活の現状、日米経済関係などを再検討していく。さらに、アメリカ資本主義の世界史的地位についても吟味したい。われわれは、アメリカを美化しすぎてはならないし過小評価してもいけない。この講義は、現代アメリカ経済を冷徹な眼でつかみ、将来の日本のありかたと私達の生きかたをさぐるための一助としたいとかがえている。講義は、われわれが興味をひかれるような資料にもついていたのしくすすめたいが、学習意欲のない学生の参加は遠慮ねがう。年間の講義をとおして出席したりえて、きちんとした小論をまとめた者のみが単位を取得しうる。なお、よりふかめて学習したい者は、私の原書講読とあわせて履修することをすすめたい。また、この講義はなるべく3年次生のうちに履修することをすすめる。

マーケティング

曾我信孝

I マーケティング概念の再検討

（現代様々な意味でマーケティングなる用語が用いられている。つまり多くは概念の拡大であって、それらを整理する必要がある。）

II マーケティング政策批判

（マーケティング政策の基本的な政策を批判的に検討する。）

III 独占的産業資本と独占的商業資本の対立

（商業の独占化によってマーケティングの展開には変化が生じている。この点を明確にする。）

商品学

塚原 博

商品学の対象から始め、商品学の歴史、商品の分類、商品の品質、鑑識、貿易と商品、商品と関税、商品と法律等を論じ、企業における商品政策（特に新製品の開発と技術・特

許・ノウハウなどの諸問題)を述べ、更に消費者の立場から見た商品について考察する。

次に個々の商品について——食系商品・衣系商品・住系商品・化学商品・機械商品(家庭電器、電子計算機、自動車、工作、産業機械など)を具体的に学んでゆく。

〔参考書〕 上坂西三『商品学概論』(同文館)

国際経済論

徳永俊明

資本主義世界経済の歴史と第2次世界大戦後の資本主義世界経済の主要問題についての基本的事項の解明、整理をめざします。講義内容はつぎのとおりです。

I 資本主義世界経済の歴史(時期区分と各時期の特徴・歴史的位置づけ)

II 第2次世界大戦後の資本主義世界経済(歴史的位置と基本構造、貿易、国際通貨制度、資本輸出——「援助」と多国籍企業、新植民地主義、「南北問題」と新国際経済秩序、資本主義世界経済の危機、日本経済と世界経済、その他)

〔教科書〕 土生・徳永・松下『第3世界への視点』(大月書店) ¥ 1,500

〔参考書〕 柴田政利『現代国際経済論』(学文社) ¥ 2,000

管理会計論

中原章吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕 拙著『企業付加価値会計論』(中央経済社)

〔参考書〕 本年度最初の講義時間に明示する。

財政学

西村紀三郎

- (1) 財政学の推移を概説し、その間の財政問題を解説して、財政の当面する諸問題を提示する。財政学が現代の財政問題をどうとらえるかが中心課題となる。
- (2) 財政学で通常とりあげる原理、法則等を概説して、その現代的意義を再検討する。原理等は今も妥当か。
- (3) 財政活動の理論的整理把握のために、財政の現実体の理解につとめる。そのため財政の制度、歴史の説明と現状の解説を多くとり入れる。
- (4) 上記の理解にもとづく財政政策の課題を明らかにし、政策のあり方と政策理論の研究

の重要性を示す。

- (5) 以上を要約すれば、伝統的財政学に対する新しい現代的財政学の探求を課題とすることになる。

〔参考書〕 西村紀三郎『財政学新論』〔改訂第二増補〕(税務経理協会)

肥後和夫『財政学要論』〔新版〕(有斐閣)

景気変動論

西村 允 克

景気変動論の問題は、全体としての経済が好況と不況という現象を交替的かつ周期的に繰り返すことを説明することにある。現代景気変動論はGNPの変動として、これを把握、分析するから、マクロ経済学の基礎を受講者は十分に理解していることが必要である。そこで講義では、マクロ経済学の基礎を一応説明し、テキストを参照しながら、現代景気変動理論と景気変動の歴史的過程を説明する。テキストはあっても、テキストに従って講義を進めるのではなく、テキストは講義の補助であって、講義への出席がなければ、講義の充分なる理解はえられないであろう。

〔教科書〕 大谷龍造『経済変動論』〔近代経済学双書〕(同文館)

経営管理論

百田 義 治

現代企業における近代的経営管理の展開はアメリカにおける管理理論と管理技術の生成・発展を契機としている。この講義では、アメリカにおける経営管理論の発展史を素材に、経営管理の理論と実践の主要な諸問題をできるだけ具体的にとりあげ、そこに流れているもの(「合理化」、「近代化」と「民主化」、「労働の人間化」といったこと)を批判的・科学的にとらえたいと考えている。勿論、我々にとっての、究極的課題は現代日本企業の経営管理諸問題の科学的解明であり、最近の「日本の経営論」や技術先端部門の経営管理といった今日の問題についても言及してゆきたいと考えている。

〔教科書〕 井上昭一・仲田正機・渡辺 峻『経営管理概論』(文理閣)

経済学史 I

福原 好 喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア

社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。

貿 易 論

古 沢 紘 造

現代資本主義論をふまえて、わが国の貿易・資本輸出の現状を分析し、日本資本主義の対外関係をより深く理解することに努める。戦後体制の解体と国際関係分断の危機をかかえこんだ今日の世界資本主義再編成の中で、日本資本主義はどのような対応をせまられているのか、またそれに伴っていかなる新たな矛盾が生じてくるのか、を考えてみたい。なお参考文献については講義の進行にあわせて指示する。

銀 行 論

本 間 靖 夫

講義は以下の三点を中心的課題として行います。

- (1) 近代的銀行の成立と歴史についての基礎理論を深めること。
- (2) 銀行の主要業務についての解説。
- (3) 戦前・戦後における銀行経営の実際についての説明。

〔教科書〕 講義中、適宜指示します。

中 小 企 業 論

三 井 逸 友

中小企業の存在については、さまざまな“俗論”が流布している。また、安易な“経営ハウツーもの”が横行し、現実離れた期待ばかりあふれている。こうした事態は、中小企業の存立にかんする科学的法則的な理解が広まっていないから生じるのである。本講義では、これを歴史的・構造的に解明し、中小企業「問題」の展開を現実の中からおう。そして、全体のねらいは、中小企業というものの存在を通じて、独占資本主義の輯造と法則、諸矛盾を、立体的につかむことにある。

〔教科書〕 佐藤芳雄『ワークブック 中小企業論』（有斐閣）

〔参考書〕 『中小企業白書』〔各年次〕

社 会 政 策

光 岡 博 美

本年度は、前年度と同様、日本労使関係発達史を中心とした講義を行うつもりであるが、特に戦後日本の労使関係の展開に中心を置きたい。そして、低成長下の日本の労使関係を展望するうえで高度成長期の労使関係のあり方を考えてみたい。各時期の労使関係を概説するというよりは、各々の時期に労使の争点となった問題を掘り下げていくことによって、その時期の労使関係に内在した諸問題が現代にどのような光と影を投げかけているか、といった側面から問題に迫っていくことにする。

〔参考書〕 隅谷・小林・兵藤著『日本資本主義と労働問題』（東大出版会）

日本経済論

森 武 曆

日本における国家独占資本主義の成立と展開を歴史的に明らかにする。1920年代の独占資本主義の成立、1930年代の国家独占資本主義の成立、第2次大戦後の国家独占資本主義の再編と発展（「高度経済成長」）の過程を追い、現代資本主義の問題を明らかにする。とくに労働者と農民を中心とした国民が資本主義の発展をどのように受けとめ対応してきたかに主題をおく。

〔教科書〕 金原左門・竹前栄治編『昭和史』（有斐閣）

人 口 論

森 岡 仁

経済学の立場から人口に接近しようとするのが本講義の特徴である。経済と人口の関係の歴史は、人類がこの地球上に出現した時期にまで遡り、従って経済学においても非常に早い時期から人口がとり入れられてきた。本講義ではわが国を含む世界全体の人口について、古くは人類の起源から、新しきはいま我々の眼前に展開する人口現象にまで論及し、その間、学としての経済人口学がどのような発展過程をたどってきたのかを詳細に論ずる。これらの論義をふまえて、最後に人口政策を論ずる予定である。

〔教科書〕 『経済人口学』（新評論） ￥ 2,800

〔参考書〕 『人口経済論』（新評論） ￥ 2,500

教育経済論

谷 敷 正 光

本年度は、戦後日本資本主義発展と教育を中心に講義する予定である。

朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の教育要求とそれに対応した政府の経済政策、教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。

〔教科書〕 最初の授業で指示する。

〔参考書〕 高浜介二『現代資本主義の発展と教育』（汐文社）

池上 惇『現代日本資本の基本構造』（汐文社）

ソヴェト経済論

山 縣 弘 志

ソ連邦は第11次五カ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平担ではない。80年代の情勢とソ連経済60年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸ることを要求している。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

労働経済論

山下 不二男

労働経済の理論と現状分析を戦後の日本の実態に焦点をおいて説明する。講義の内容は、1. 序論 2. 労働市場 3. 雇用と失業 4. 賃金、の4つの分野に分れる。1では労働問題と労働経済学、労働経済学の体系などの序論的問題、2では労働市場の意義と構造、日本の労働市場の特徴などの問題、3では労働力の供給、労働需要、失業と雇用対策などの問題、4では賃金の理論、賃金と生産性・物価、賃金と団体交渉、賃金構造、日本の賃金の特徴とその変化などの問題が取扱われる。講義は下記の教科書を利用して行う。

〔教科書〕 拙著『日本労働経済概説』（日本労働協会） ¥ 1,700

〔参考書〕 西川俊作『労働市場』〔日経文庫〕（日本経済新聞社） ¥ 550

白井泰四郎『労使関係論』（日本労働協会） ¥ 800

国民所得論

吉野 紀

近代経済学の1つの柱である所得分析論の講義を行う。この分野は、最近、特に政策面での有効性を問う形で変転が著しいが、人間が変化したわけではなく、また、政策手段の道具に妙手が見い出されたわけでもなく、広い意味での経済環境の変化を反映したものであろう。したがって、基本的枠組みに加えて理論のバリエーションに言及するとき、この環境の変化とをセットにして説明することを心懸けたい。

近代経済学

浅田 統一郎

本講義では、以下の順序に従って近代経済学の基礎知識を体系的かつ平易に解説する。

I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 生産・企業行動の理論
3. 市場均衡の理論
4. 不完全競争の理論
5. 市場の失敗と公共財の理論

II マクロ経済学の理論

1. 国民所得の概念
2. 国民所得決定の理論
3. IS・LM分析
4. 財政・金融政策の効果
5. 物価水準の決定とインフレーションの理論

教科書は特に指定しないが、参考書として以下の文献を挙げておく。

〔参考書〕 荒憲治郎『セミナー経済学教室13 近代経済学』（日本評論社）

奥野正寛『ミクロ経済学入門』〔日経文庫〕（日本経済新聞社）

中谷 敏『入門マクロ経済学』（日本評論社）

ヨーロッパ経済論

津 守 英 夫

最近の貿易摩擦等、わが国との関連が深まってきている欧州共同体（EC）の経済について、その成立と仕組み、共通農業政策を始め各種の産業政策、対外関係と世界経済に占める地位等の全般にわたる基礎的な諸問題の講義を行う。

〔教科書〕 内田勝敏・清水貞俊『EC経済をみる眼』（有斐閣新書） ¥ 730

原 書 講 読

浅 田 統一郎

近代経済学の文献を読むために必要な英文の読解力を養うことを目的として、下記のテキストを講読する。講義は輪読形式で進めるが、特殊な専門用語については、随時解説する予定である。意欲ある受講者の参加を期待する。

〔教科書〕 J. A. Kregel “The Theory of Economic Growth” (Macmillan)

〔参考書〕 長谷川啓之『英和和英経済用語辞典』（富士書房）

原 書 講 読

浅 野 克 巳

平易な英文で書かれた以下のテキストを用いて、経済学の基礎理論を勉強していこうと思います。短時間に英文の要旨を正確に把握する能力の養成を目指す。

〔教科書〕 Richard G. Lipsey & Peter O. Steiner, “Economics,” 6th ed., Harper International Edition.

原 書 講 読

荒 木 勝 啓

本年度は、W. J. Baumol and A. S. Blinder, Economics (Harcourt Brace Jovanovich International Edition, 1979) のうち、Chap. 12, Central Banking and Monetary Policy (中央銀行と金融政策), 13, Money and National Economy (貨幣と国民経済)14, The Keynesian-Monetarist Debate Over Stabilization Policy (安定化政策に関するケインジアン＝マネタリスト論争)を通読する。

原 書 講 読

有 井 行 夫

英文の新聞記事を政治経済問題を中心に読みます。教材は教師が必要に応じて配布します。

原 書 講 読

飯 岡 透

平易な英文で書かれた会計学のテキストを用いて会計学の基礎理論を勉強していきます。テキストとして、下記の文献を予定しています。コピーして配布します。

〔教科書〕 Hendriksen, E. S. Accounting Jheory.

原 書 講 読

石 井 修 二

現代社会は、周知のごとく組織社会・管理社会といわれ、様々な問題を生起させている。なかでも企業社会の内部では、技術進歩や組織の官僚制化の進展のなかで生産現場を中心にいわゆる労働疎外といわれる状況が拡がりつつある。この問題への対応策として先進工業国では従来までの労働のあり方を変えていこうとする動きが顕著になってきた。それは、職務内容の再設計・作業組織の再設計・労働者参加といった「労働の人間化」「労働の質の改善」(QWL)運動として展開されている。ここでは、このような動きを各国の事情に目を向け検討する。

〔教科書〕 ILO. New Forms of Work Organization (1)・(2), 1979.

原 書 講 読

岩 下 弘

小売商業に関する公共政策についての英文の文献を講読する。文献はその都度購入あるいは配布する。

原 書 講 読

大 吹 勝 男

今年度は「資本蓄積論」に関する外国語文献(英語)をテキストを使用して輪読形式で進めたいと考えている。積極的に勉強してゆく意欲をもった学生の受講を期待する。なお、邦語の参考文献等については必要に応じて紹介する。

〔教科書〕 現在未定

原 書 講 読

小 杉 修 二

久しい間国の基本的な統計数字を公表してこなかった中国は、最近になって、データの公表をするようになった。そのさまは、あたかも「情報ラッシュ」の観がある。

そして、毛沢東モデルの破産とともに経済学の一定の復興が見られる。本年度は、こうした動向から生れた1つの成果である中国語文献を読む。

〔教科書〕 馬洪・孫尚清編『中国経済結構問題研究』〔上・下〕(人民出版社)
(1981年12月刊)

原 書 講 読

小 林 英 夫

『資本論』第一巻をドイツ語で読むこととする。途中、関連文献の検討もあわせておこなう。毎時間、レポートの提出を求める。

原 書 講 読

齋 藤 正

“Time” や “Economist” 誌等のなかから適当なものを選択し、経済に関する時事問題
を講読する。

使用するテキストは適宜コピーして配布する。

原 書 講 読

瀬 戸 岡 紘

現代の資本主義経済の諸事情、とくにアメリカのそれについてかかれた英語の文献をい
くつか検討する。これにより各自がはばひろい視野にたつて現代の国際経済、アメリカ経
済事情などを批判的に研究していく能力がやしなわれることを目的としたい。もっとも、
この膨大な課題を、外国語をつうじて、かぎられた時間で内容をゆたかになしとげるこ
とは容易でないので、私の主要講義——アメリカ経済論——と並行させて、その内容をいっ
そうふかめるのに有意義な文献にしぼってすすめる。したがって、この講義とあわせて履
修することをすすめたい。文献は随時選定して配布し、授業では原文そのものからの内容
理解に力点をおくような読み方をする。あくまで経済学の学習の一貫として英文をつかう
ことに徹するためである。また内容にまつわるさまざまなエピソードをもちこみ、英語に
自信のある者にとっても自信のない者にとってもそれぞれに興味をひきだせるようにする
つもりである。なお少人数講座の性格上、必要なら教場での授業だけにこだわらない学習
をも企画し（たとえば日米経済摩擦の舞台となっている工場を見学するなど）、最新の経
済情勢をつかむことも考えている。

原 書 講 読

曾 我 信 孝

I 講義内容

マーケティングに関する著書を英語版で読む。

II 講義方法

時間毎に指名しておき、訳および内容を報告してもらい、それについての質疑応答の形
式にする。

III 教科書

コピーして渡す。

原 書 講 読

徳 永 俊 明

〈スペイン語〉 —世界経済、とくに発展途上国の経済についての文献を読みます。毎回
日本語訳文の提出を求めます。テキストは教場で配布します。

原書講読

百田義治

欧米の「日本的経営」に関する文献をテキストに、欧米の企業経営と日本の企業経営を比較検討し、現代巨大企業の経営管理について理解を深めたいと考えます。授業のすずめ方は、受講者の人数などを考慮して決めたい。

テキストは適時配布します。

原書講読

福原好喜

私のカール・マルクス「資本論」（ドイツ語）講読も今年で七年目を迎える。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく第一篇、第三章、第二節、貨幣の流通のところから読むことになろう。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でも幾分ドイツ語の素養のある人が望ましい。

原書講読

古沢紘造

現代アフリカの社会、経済に関する文献（英語）を輪読する。アフリカは世界で最も遅れた大陸といわれているが、「人間の生活そのものの豊かさ」からみたらどうだろうか。第三世界に対する私たちの考え方の底にある偏狭で独断的なものをみつめなおしてみたい。

原書講読

三井逸友

今年度は、現代資本主義論への1つのアプローチとして、「労働市場分断（labor market segmentation）論」ないしは、「二重労働市場（dual labor market）論」についての文献を、輪読していきたい。テキストは適宜配布する。

原書講読

光岡博美

欧米の労使関係に関する文献を読んでいくこととする。なお、文献については最初の授業で指示する。

原書講読

山縣弘志

ソ連経済に関する平易なリーダーを読む。

〔教科書〕 Вячеслав Стороженко, Беседы о советской экономике. Москва, 1980.

演 習 I

浅 田 統一郎

テーマ〔現代マクロ経済学の研究〕

マクロ経済学は、近代経済学の中でも特に現実の経済問題、経済政策と深い関わりを持った理論分野である。本演習では、現代マクロ経済学の最新の成果を平易に概説した定評あるテキストを輪読することにより、マクロ経済学の全体像を学ぶ。尚、演習参加者は、特別な予備知識を要求されないが、「経済学的な思考」の訓練を演習の目的とする。

〔教科書〕 R. ドーンブッシュ・S. フィッシャー『マクロ経済学』〔上・下〕（マグローヒル好学社）

演 習 II

浅 田 統一郎

テーマ〔資本・分配・経済成長の理論的研究〕

経済成長と所得分配をめぐる諸問題の分析は、古典学派時代より現代に至るまで、常に理論経済学の最重要なテーマの一つであり続けてきた。本演習では、これらの諸問題に対する近代経済学の立場からの接近を試みる。主な内容は以下のとおりである。

1. 新古典派の経済成長理論
2. ケインズ派・新ケインズ派の経済成長理論
3. ケンブリッジ資本論争
4. 技術進歩の理論的分析

尚、高校程度の初等微積分以上の数学的予備知識を前提としない。必要な数学については随時解説するつもりである。

〔教科書〕 ハイウェル・G・ジョーンズ『現代経済成長理論』（マグローヒル好学社）

〔参考書〕 J. R. ヒックス『資本と成長』〔I, II〕（岩波書店）

John Craven "The Distribution of the Product" (George allen & Unwin)

演 習 II

津 守 英 夫

欧州共同体（EC）経済についての知見と理解を深めるため、ECを構成する主要国、イギリス、西ドイツ、フランスの各国の経済構造とその歴史的発展を扱った適当な著作を選定し、その講読を行う。

演 習 III

金 井 正

学生と相談のうえ決定する。

演 習 III

津 守 英 夫

欧州共同体（EC）経済についての知見と理解を深めるため、ECを構成する主要国、イギリス、西ドイツ、フランスの各国の経済構造とその歴史的発展を扱った適当な著作を選定し、その講読を行う。

教職および資格講座

教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座受講の手びき」を参照）

課 程・講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全学部
学校図書館司書教諭講座	全学部
博物館学講座	文学部・仏教学部
社会福祉主事講座	文学部・仏教学部
社会教育主事講座	文学部・経済学部・法学部・経営学部



目 次

<p>教育原理(上岡 安彦)…………… 1</p> <p>教育原理(村山 輝吉)…………… 1</p> <p>教育原理(坂本 信昭)…………… 1</p> <p>教育原理(汐見 稔幸)…………… 1</p> <p>青年心理学(大浜幾久子)…………… 2</p> <p>青年心理学(武井 澄江)…………… 2</p> <p>青年心理学(牟田 悦子)…………… 2</p> <p>青年心理学(渡辺三和子)…………… 2</p> <p>教育心理学(大浜幾久子)…………… 2</p> <p>教育心理学(武井 澄江)…………… 2</p> <p>教育心理学(中村 均)…………… 3</p> <p>教育心理学(渡辺三和子)…………… 3</p> <p>道德教育の研究(万羽 晴夫)…………… 3</p> <p>教育実習(上岡 安彦)…………… 3</p> <p>教育実習(村山 輝吉)…………… 3</p> <p>教育実習(坂本 信昭)…………… 4</p> <p>教育実習(汐見 稔幸)…………… 4</p> <p>国語科教育法(神谷 道倫)…………… 4</p> <p>書道科教育法(谷村 義雄)…………… 4</p> <p>宗教科教育法(松本 皓一)…………… 5</p> <p>英語科教育法(大沢 一雄)…………… 5</p> <p>社会科教育法(地理)(高木 久)…………… 5</p> <p>社会科教育法(地理)(中島 義一)…………… 5</p> <p>社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)…………… 5</p> <p>社会科教育法(谷敷 正光)…………… 5</p> <p>社会科教育法(古屋野素材)…………… 6</p> <p>社会科教育法(大久保治男)…………… 6</p> <p>職業科教育法(中野目直明)…………… 7</p> <p>商業科教育法(谷敷 正光)…………… 7</p> <p>商業実習(前田 幸一)…………… 8</p> <p>職業指導(山田 勇治)…………… 8</p> <p>産業概説(和田 禎一)…………… 8</p> <p>世界史概説(前田 正名)…………… 9</p> <p>世界史概説(青木 道彦)…………… 9</p> <p>日本史概説(芥川 龍男)…………… 9</p> <p>地誌学概説(今朝洞重美)…………… 9</p>	<p>地誌学概説(長野 覚)…………… 9</p> <p>地誌学概説(渡辺 盾夫)…………… 9</p> <p>自然地理学概説(早船 元峰)…………… 10</p> <p>人文地理学概説(高木 久)…………… 10</p> <p>社会学原論(渡辺 源樹)…………… 10</p> <p>経済原論(小野 俊夫)…………… 10</p> <p>政治学原論(岡田 皓一)…………… 10</p> <p>民法Ⅰ(雨宮 真也)…………… 11</p> <p>哲学特講Ⅰ(東洋)(篠原 寿雄)…………… 11</p> <p>哲学特講Ⅱ(西洋)(国嶋 一則)…………… 11</p> <p>宗教学特講Ⅰ(松田 文雄)…………… 11</p> <p>宗教学特講Ⅱ(脇本 平也)…………… 11</p> <p>宗教学特講Ⅲ(洗 建)…………… 12</p> <p>教育史(磯野 昌歳)…………… 12</p> <p>宗教教育(桜井 秀雄)…………… 12</p> <p>教育関係法規(汐見 稔幸)…………… 12</p> <p>図書館学Ⅰ(若林元典・山崎慶子)…………… 12</p> <p>図書館学Ⅱ(若林 元典)…………… 13</p> <p>博物館学(倉田 芳郎)…………… 13</p> <p>博物館実習Ⅰ(館務) (倉田芳郎・石井孝則)…………… 13</p> <p>博物館実習Ⅱ(収集) (倉田芳郎・葉貫磨哉・所理喜夫)…………… 13</p> <p>博物館実習Ⅲ(見学) (倉田芳郎・鶴丸俊明)…………… 14</p> <p>博物館実習Ⅳ(特講)(石井 則孝)…………… 14</p> <p>視聴覚教育(赤堀 正宜)…………… 14</p> <p>日本文化史Ⅰ(圭室 文雄)…………… 14</p> <p>印度仏教文化史(奈良 康明)…………… 15</p> <p>西洋文化史Ⅰ(糠川 一朝)…………… 15</p> <p>西洋文化史Ⅱ(阿部 重雄)…………… 15</p> <p>仏教美術(林 良一)…………… 15</p> <p>現代美術(中山 典夫)…………… 15</p> <p>禪美術(竹内 高次)…………… 15</p> <p>美術史概説(林 良一)…………… 16</p> <p>西域美術史(林 良一)…………… 16</p>
--	--

考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎)……………16	社会福祉事業発達史(林 千代)……………21
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)……………16	母子福祉論(林 千代)……………21
考古学特講Ⅱ(飯島 武次)……………16	医療社会事業論(春見 静子)……………21
考古学特講Ⅳ(狩野 千秋)……………17	社会福祉方法総論(高橋 重宏)……………22
日本民俗学(山折 哲雄)……………17	社会福祉管理運営論(重田 信一)……………22
仏教民俗学(和田 謙寿)……………17	リハビリテーション論(原田 信一)……………22
宗教学類学(佐々木宏幹)……………17	社会教育概論(磯野 昌蔵)……………22
考古発掘実習(飯島 武次)……………17	社会教育方法論(磯野 昌蔵)……………23
社会福祉概論(高橋 重宏)……………17	社会教育行政財政(酒匂 一雄)……………23
障害福祉論(原田 信一)……………18	教育社会学(村山 輝吉)……………23
社会福祉実習(原田 信一)……………18	社会心理学(坪井 健)……………23
社会福祉法制(小林 弘人)……………18	社会教育施設(村山 輝吉)……………23
公的扶助論(小沼 正)……………18	児童教化(富田 博之)……………24
児童福祉論(原田 信一)……………19	青少年問題研究(和田 謙寿)……………24
老人福祉論(奥山 正司)……………19	青少年指導実習(和田 謙寿)……………24
社会保障概論(小沼 正)……………19	社会教育演習(上岡 安彦)……………25
地域福祉論(岡田 真)……………20	教育評価(大沢幾久子)……………25
ケースワーク論(高橋 重宏)……………20	教育法規研究(神田 修)……………25
グループワーク論(松本 栄二)……………20	成人指導及青少年指導(酒匂 一雄)……………25

教育原理

上岡安彦

教育に関する古典をたんねんに読むなかで、“教育とは何か”を変え、そこから日本の教育の事実に戻って教育本質論を再考したい。

〔教科書〕 ルソー著・今野一雄訳『エミール』（岩波文庫）上，¥550 中，下，各¥450

教育原理

村山輝吉

前半は主として下村湖人の教育論を軸に，教育とはなにかということを原理的に追求したい。後半は，いくつかの実践記録をとり上げ，それを読みあうことを通して，今日の教育の問題点を考察したい。

〔参考書〕 その都度指示する。

教育原理

坂本信昭

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の内容
4. 教育の方法
 - (1) 教授学習の方法
 - (2) 生活指導
5. 教育の経営
6. 教育の制度
7. 教師

おおむね上記についてテキストにそって論究してゆく。

〔教科書〕 教師養成研究会編『教育原理』（4訂版）（学芸図書） ¥900

〔参考書〕 デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫）

ルソー著・今野一雄訳『エミール』など，授業で適宜紹介する。

教育原理

汐見稔幸

発達的な人間学への展望のもとに，教育とは何であったか，望ましい教育とその可能性は，等について諸角度から考え合う。具体的には，人類の歴史と教育の諸相，現代日本の教育の課題，人間が発達するとはどういうことか，教えるということの本質，今日の教師の在り方，などを探ることになる。

〔参考書〕 勝田守一『能力と発達と学習』（国土社）

青年心理学

大 浜 幾 久 子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

武 井 澄 江

前半では、青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づけ、その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。後半では、特に、青年の人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面に焦点をあて“青年”を考えていく。

青年心理学

牟 田 悦 子

青年期は第2の誕生ともいわれ、他の時期と質的に区別されるが、誕生から死に至るまでの人間の発達の中で連続するものと不連続なものについて考えながら、青年期の意味を理解していきたい。また、現在青年期にある自分自身についての理解を深めることもこの授業のもうひとつの目的である。

〔教科書〕 藤永保也編『青年心理学 テキストブック心理学(5)』（有斐閣） ¥ 1,200

〔参考書〕 井上健治他編『青年心理学』（有斐閣）

青年心理学

渡 辺 三 和 子

前期では人格発達の諸問題を取りあげ、人間の発達における青年期の占める位置を考える。後期では、青年期独自の問題を検討しつつ、自己を深め、また中高校生の心理を理解することをめざす。

〔参考書〕 津留宏『青年心理学』（有斐閣双書）

教育心理学

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

武 井 澄 江

「発達」「学習」「集団」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。多くの具体例をあげながら、また、知能検査その他の実習を含めて講義をすすめていく予定である。

教育心理学

中村 均

大人になってしまった者（たとえば、この講義への出席者）にとって、子どもの理解は大変困難である。そこで、子どもがどうしてそのような行動をとるのか、について、心理学の考え方で、説明を試みる。と同時に、望ましいと思われる行動をとらせるためにはどうしたら良いのか、について考えてみる。（発達、および学習）

また、それぞれの子どもに応じた教育的働きかけについて（個人差）、更に、教育的働きかけがうまくいっているのかどうかをチェックする方法（評価）について触れる。

教育心理学

渡辺 三和子

前期は発達のしくみ、発達と学習を中心に、後期は教校における教授学習の過程について考察する。

〔参考書〕 永野重史・依田明編『教育心理学入門』（新曜社）

道徳教育の研究

万羽 晴夫

明治以降の道徳教育の歴史的検討を通して、道徳教育のあるべき姿を考察する。

〈主たるテーマ〉

1. 教育勅語の成立と、その果した意味。
2. 宗教と教育。
3. 国民学校と道徳教育。
4. 教育基本法の要請する要件。
5. 「道徳」授業の特設と、とりたてての指導。
6. 「人間性豊かな児童の育成」について。

〔参考書〕 『史料 道徳教育』（総合労働研究所） ￥2,000

教育実習

上岡 安彦

「教育実習」期日前は、実習校での教育実習の実際について講義を行なう。

「教育実習」後は、実習生の教育実習の“体験”から、“教育の構造”を再顕していく研究の場とする。

教育実習

村山 輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育について理解と関心が深まるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義や心がまえ
2. 学習指導について

3. 生活指導について

4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習の体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面談等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

坂本 信昭

駒沢大学の教育実習は“通年履修”となっており、教育実習前後の大学での授業はおおむね下記のとおりに進める。

教育実習前の段階では、(1)教育実習の意義及び目標・内容(領域)に関する講義とそれに並行して、(2)実習校における教育実習の事例を示し、(3)教育実習の心得などについての事前指導を行なう。

教育実習後は、(1)教育実習の口答報告、(2)レポート作成→提出、(3)提出レポートを教材としてのグループ編成による授業(ディスカッション)を行ない教育への理解を深め、望ましい教師のあり方などについて考える、いわゆる事後指導を行なう。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』(共文社)など、授業で適宜紹介する。

教育実習

汐見 稔幸

実習前は実習の意義、心がまえ、授業の本質などについて論じ、実習後は感想等をもとに、よりつっこんで教えることの意義、可能性、教師のあり方などについて考えあう。

国語科教育法

神谷 道倫

中学校・高等学校の国語科教育の意義・現況、ならびに学習内容(領域)・教材に即したそれぞれの指導方法等の基礎的事項について講義、のち実際の教材にあたって指導事項・指導方法等の研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新版)』(桜楓社) ¥ 880

(『古典文学選』(教育出版)定価未定——後半使用の予定・改めて指示)

書道科教育法

谷村 義雄

高校書道の教科内容について解説するとともに、ひろく書道という芸術の歴史的展開および書法そのものの伝統と技法について理解せしむるように講義する。(前期)

書道金石学の基礎について研究学習を進める。この分野はまだ我が国では未開拓に属するので特に中国の学術書について解説する。(葉昌熾・『語石』の講読)(後期)

〔教科書〕テキストはプリントして使用。

〔参考書〕『高等学校学習指導要領解説(芸術科篇)』(文部省)藤原楚水『書道金石学』

宗教科教育法

松本 皓一

宗教科教育上の理論と実際上の問題点をのべ、教材研究を中心に授業を進める。

〔教科書〕 ノート中心

英語科教育法

大沢 一雄

各種教授法について述べたあとで、新しい教授法がどうあるべきかを考える。なお、初級から上級までの各段階の英語教授について演習をおこなう。

社会科教育法（地理）

高木 久

1. 教師としての在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なっていく。

社会科教育法（地理）

中島 義一

中学・高校の社会科（地理）につき指導計画・指導案の立て方・教材研究・地理クラブ・修学旅行の指導法等につき講じ、後半は授業演習を行う。下記教科書のほか ①中学校の社会科（地理）教科書と ②地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を必要とする。①については授業時に指示する。

〔教科書〕 山崎謙哉『新討地理教育の本質と実践』（古今書院）

社会科教育法（歴史）

野呂 肖生

中・高等学校における社会科、とくに歴史の指導をするにあたって必要なことがらを、理論と言践の両面から考えてゆきたい。そのために課題をかなり多く課す予定である。

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な

使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺し続けてきた。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容、⑨高等学校社会科の目標・内容、⑩教育評価、⑪教育実習のために、⑫教育採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』 (太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』 (新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』 (角川文庫) その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、学習指導要領も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

社会科教育法

古屋野 素 材

我が国において社会科について考えるということは、一教科の問題にとどまらず、必然的に教育問題全体の極めて重要な側面—政治状況と教育の緊張関係をはじめとして—を考察する方向へむかわざるを得ない。当講義では、この点をふまえつつ、社会科に関連する歴史的な問題構造を検討し、かつ今後の社会科教育が果たすべき役割とその可能性の検討を通じて、各自が教職に主体的にかかわってゆく手がかりをさぐりたい、特に、大学生として、各自が専攻する領域で深い学識を得てゆく過程をこそ、教職志向のパネとしてゆくことに価値を求める Open System の主旨にそうべく、人文・社会諸科学と社会科の関係についても、具体的に検討してゆきたい。

〔教科書〕 特に用いない。

〔参考書〕 講義中に紹介する。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等に

ついて考究する。さらに具体的の指導計画，指導案，指導方法，教材研究，教育評価のモデルケースのプランニングや教育実習を通じて合目的教育方法を発見させるように努める。教師としての自覚や心構もわからせる。一方的講義ではなく受講生にも積極的に学習参加をさせ意欲をもって楽しい授業として進行するよう工夫する。

〔教科書〕 その都度指示する。

職業科教育法

中野目 直 明

下記の事項について，教職についた場合に役立つような視点から，具体的な事例を取り上げて講義を行なう。

1. 現代における職業の意義
2. わが国における職業教育の歴史と課題
3. 職業高校の現状と課題
4. 高校の新教育課程
5. 学習指導案，学習指導計画の作成
6. 教材研究
7. 外国の職業教育

〔参考書〕 宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』〔講座 現代技術と教育4〕（開隆堂）

¥ 1,600

宮地誠哉『中等教育と職業生活』（川島書店） ¥ 1,600

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は，日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され，産業構造の高度化，経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして，今後の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう，再び大きく，軌道修正されようとしている。従って，本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在，しっかりと商業教育を樹立するため，この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり，本格的な意味での商業教育論，職業教育論を展開し，教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育，②教育の基本概念，③職業教育（商業教育）の概念，④高等学校における商業教育の現状と課題，⑤高等学校の教育課程，⑥商業科の教育課程，⑦商業科目の学習指導，⑧学習指導案の作成，⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い，⑩教育評価，⑪教育実習のために，⑫教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）

矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 国民教育研究所『高校職業教育の改革』（草土文化社），遠山啓『競争原理

を越えて』(太田次郎社)、田代三良『高校生』(岩波新書)、『あしたに甦れ』(文理閣)その他商業の教科書、学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修(授業参観)などを行う予定である。

商業実習

前田幸一

授業の講義は次の内容にてすすめていく。

- (1) 商品の流通について。
- (2) 商品取引に係る諸機関とその機能について。
- (3) 商品取引過程に生ずる事務手続の実際について。

なお、講義と並行して、商品取引の実際面を会社見学などを通じて体得していくようにする予定である。

〔教科書・参考書〕未定(授業の際に指示)

職業指導

山田勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』(創成社) ¥ 1,300

文部省『進路指導の現状と問題』(ぎょうせい) ¥ 200

〔参考書〕近藤大生・有本章編著『職業と教育—職業指導論—』(福村出版) ¥ 1,500

産業概説

和田禎一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本の経済の展開にかかわった日本の産業と産業政策を概観、分析、評価することとしたい。

〔教科書〕授業に際して適宜指示する。

世界史概説

前田正名

東アジア史の概説をする。殷からはじめ、宋代まで説明する予定である。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房博文社）

世界史概説

青木道彦

歴史的世界としてのヨーロッパは、どのように成立し、どのように発展したかという点を中心に講義する。年間4～5回小テストを実施するが、理由なくこの小テストに欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うというつもりで受講されるよう注意しておきたい。

特に教科書はきめないが、下記の二冊が参考になるであろうし、高校時代の世界史教科書を利用されるのもよいと思う。

〔参考書〕 祇園寺信彦『西洋史要綱』（御茶の水書房）

衣笠茂等『概説 西洋史』（東京創元社）

日本史概説

芥川龍男

中世を中心として講義するが、一方的な講義だけでなく、常に質問をしながら進めてゆく。講義中に紹介する参考書、文献などを積極的に読破してほしい。

講義の中で史料講読も併行して行なうので予習などはもちろん関係文献も読破し、口頭発表も可能なように常に準備して出席するよう希望する。

〔教科書〕 『日本歴史の視点』2 中世（日本書籍）

〔参考書〕 『日本歴史辞典』（角川書店）

地誌学概説

今朝洞重美

地誌学の本質論を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外国地誌を講義する。

地誌学概説

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域的特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』〔改訂版〕（大明堂）

地誌学概説

渡邊 盾夫

読図の方法を理解したのちに、地誌について各国の地域的特色を入れて講義をする。

受講の際には地図帳を持参すること。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について述べ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講性に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々なる作業(土地利用図・切峰面図・带状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意のこと。

人文地理学概説

高 木 久

地理学思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門(地図、自然、人文関係)について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

社会学原論

渡 辺 源 樹

社会学は、何よりも人間の共同生活についての、ひとつの経験科学として、実際の経験的事実の分析から出発する。このことを踏まえ、本講では、とりわけ社会集団と人間の問題という論点を中心にして、集団の構造と機能、地位と役割、さらには準拠集団・リーダーシップ・権力・官僚制等々の諸概念を用いながら、個々の具体的な諸集団を分析してゆこうと考えている。

経済学原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学は、微視的理論と巨視的理論を二大支柱としている。前者は個々の経済主体の分析から出発し、後者は一国全体の経済現象を直接分析することによって、資本主義の経済過程を解明しようとするものである。本講義では、巨視的理論に重点をおくが微視的理論にも注意を払いながら解説し、現代資本主義経済に関する分析力を養うことを意図している。

〔教科書〕 開講の際に知らせる。

政治学原論

岡 田 皓 一

本講は、政治学の基礎理論をとりあげ、その原理的究明に視点をあてて講義する。特に本講では現代政治についての理解を深めるという意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに政治権力、選挙、国家、政治機構などといった問題にも論及する。

〔教科書〕 飯山勇『政治学要論』(八千代出版)

民法 I

雨宮真也

民法のうち、総則・物権・担保物権の分野を講義する。

とくに、民法総則の分野においては、法律を学ぶうえで最も基本的な多くの考え方が現われてくる。たとえば、法律行為（契約も手形行為も法律行為の一種である）とは何か、その成立・不成立、有効・無効などについての考え方である。

3年次以降において、民法Ⅱ・商法・経済法など法律科目を履修しようとする者は、法学の基礎を学ぶという意味においても、民法Ⅰを履修しておくべきである。

〔教科書〕 雨宮真也 外二名 共著『民法読本Ⅰ（総則・物権・担保物権）』（高文堂出版社） ¥ 1,580

哲学特講 I（東洋）

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 そのつど紹介したい。

哲学特講 II（西洋）

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造

的に連関しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔参考書〕 適時指示する。

宗 教 学 特 講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題，とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範，更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

教 育 史

磯 野 昌 蔵

わが国及び欧米諸国における青年期教育の発達を検討する。

宗 教 教 育

桜 井 秀 雄

宗教教育の原理を究明し，できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり，これに対する具体的方法について考察し，家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

教育関係法規

汐 見 稔 幸

現代日本の公教育を支えている教育法制的仕組みを理解するために，主として憲法・教育基本法の成立の背景とその歴史的意義を説明し（前半），それに基づき，学校教育を具体的に規制している教育関係法則を，事例をまじえながら説明する（後半）。関連して，教員になろうとする者が理解しておかねばならない今日のおが国の教育諸問題の要因を考え，その解決や克服の方途を探り合うことをめざす。

〔参考書〕 『教育小六法』（学陽書房）

図 書 館 学 I

若 林 元 典 ・ 山 崎 慶 子

児童，生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か，どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか，それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか，又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で，後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

若林元典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』（全国学校図書館協議会）

博物館学

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館学の基本を講ずるので、この講義を聴くだけでは博物館を全く識るには程遠いのである。その点からいえば社教主事の資格を取得しようとする方は、なるべくは他の選択科目を受けていただきたい。4月第1週の時間に必ず出席すること。

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・石井孝則

博物館で10日間学芸員について実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫 磨哉
所 理喜夫

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬

4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・鶴丸 俊明

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習は前期・後期のいずれかの半期行うのであるが、組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

博物館実習Ⅳ（特講）

石井 則孝

日進月歩の博物館の世界に於て、相変わらず新設館の建設ブームは続いている。このような環境の中で、千葉県佐倉市に建設された「国立歴史民俗学博物館」が昭和58年春3月に開館する。建物の規模はさることながら、コンピューターシステムの完備、開かれた博物館として、共通利用施設としての活動がみものである。この新時代を迎えての博物館は、今後どのような展開をみせ、発展していくのか、実践的な博物館展示を通して、一般市民と博物館の関係を明らかにして、「モノ」の在り方から、社会教育、生涯教育を考える時、いかに博物館を利用していったら良いのか、理論よりも実践面を教示する。

視聴覚教育

赤堀 正宣

学校教育や社会教育における視聴覚教材の利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新につながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

（注）特別教科書は使用しません。

〔教科書・参考書〕 必要に応じてその都度参考図書を示す予定です。

日本文化史Ⅰ

圭室 文雄

日本における歴史の流れを考える時、その文化現象として宗教が果たした役割はきわめて大きい。ところが現代の生活においては、冠婚葬祭を除けば我々の日常にはほとんど関係がなくなっている。それだけに我々が過去の歴史を考えるとき、ともすれば等閑視するきらいがある、それゆえ、ここでは古代より現代に至る生活の中で、宗教が果たした役割をあらきらかにしたいと思う。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹也・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

印度仏教文化史

奈良 康 明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑わない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいをみるところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇『インド入門』（東大出版会）

奈良康明『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版）

西洋文化史Ⅰ

椽 川 一 朗

都市史。中世および近世の西洋都市につき、時代別・主要国別に、比較しつつ講述する。とくにドイツについては、昨年度の「各説」における農村社会構造史の続きの意味をこめて、詳述する。

西洋文化史Ⅲ

阿 部 重 雄

16—17世紀はヨーロッパの近代がはじまる時期で、激動の時代である。この時期の社会と思想を関連づけながら展望する。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

仏教美術

林 良 一

仏教美術の図像学ならびにインド以来の様式的展開について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、原地撮影のカラー・スライドによって映写し、理解を深めるように努める方針である。

現代美術

中 山 典 夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

禪美術

竹 内 尚 次

禪林美術の国宝・重要文化財を時代をおって、それぞれについての確実な史料を提示し、それぞれの時代背景を明示する。これによって、禪林美術の高い美術性を、学生それ

それぞれが自分の目と手と足で探究する手助けとしたい。

従って、春秋2回の古美術を参観することによって、それが十分でないとしても実物（各時代の真贋）に触れ、東洋の美術作品のなかに内在する純粋な詩と哲学を直かに把握するように希うものである。

また、広く旧仏教・密教・浄土教などの高度の美術作品をも考慮に入れて、学習そのものにも幅と厚みをも加えたいと思う。単にカルチャーや術学を求めようとする人は、お断りしたい。

〔参考書〕 玉村竹二『夢窓国師』（平楽寺書店）

美術史概説

林 良 一

本年度は、日本の古代美術史、ことに飛鳥・白鳳・天平時代の様式史的展開について講述する。寺院や遺品などのカラー・スライドを映写し、理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良 一

西域美術、ことに仏教美術を中心として、各地遺跡および遺品について講述する。遺品などのカラー・スライドを映写し、理解を深めるように努める方針である。

〔参考書〕 林良一『シルクロード』（美術出版社）

考古学概説 I（日本）

倉 田 芳 郎

考古学研究の基礎知識を身につけるように、という点に立って講義をする。今年度は、ヨーロッパの考古学の発達に重点をおいて話す予定である。歴史学科学生にとっては、概説の選択必修科目ならびに専門選択科目である。また学芸員課程の学生にとっての選択必修科目でもある。年度第1回目の授業には必ず出席してほしい。特に教科書は使わない。

考古学概説 II（外国）

飯 島 武 次

本年の考古学概説II（外国）は、東洋（中国、朝鮮、東南アジア）における考古学研究について講義する。

〔参考書〕 文物編集委員会『中国考古学三十年』（平凡社） ¥ 8,800

考古学特講 II

飯 島 武 次

夏商周考古学研究についての講義。

考古学特講 IV

狩野千秋

アメリカ大陸の古代文明のうち、とくにマヤ、アステカ、インカを対象として、それぞれの生成過程と文化の特質について考察することにした。

〔教科書・参考書〕 教場にて指図する。

日本民俗学

山折哲雄

日本人の民族性と自我構造の特質について、民俗学の立場から考察する。

〔教科書〕 山折哲雄『日本人の心情』（NHKブックス）

仏教民俗学

和田謙寿

文化財の集いや郷土史の研究会にのぞんだ場合、必ず仏教文化史的な知識が必要となってくる。更にまた、葬式や法事などに出かけると必ず、仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処出来るように冠婚葬祭、特に先祖供養と葬送の面に重点を置き今年の講座を進めて行きたいと思う。尚、実地巡検や特殊ゼミ・夏季休暇を利用しての海外特殊巡検（希望者）を実施する場合もあるので留意してほしい。

〔教科書〕 和田謙寿『仏教の地域発展』—民俗学・歴史学的考察—（仏教民俗研究会）

¥ 2,600

宗教人類学

佐々木宏幹

諸民族の呪術—宗教的生活を構造—機能的に理解しようとした人類学者の研究論文を若干取り上げ、紹介するとともに、私が国内、国外各地で行なった実態調査の結果について述べる。参考書は必要に応じて挙げる。

考古発掘実習

飯島武次

野外における発掘実習を行なう。夏休みに行なう発掘実習に、20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間には必ず出席すること、欠席すると実習参加が不可能となるので注意されたい。

社会福祉概論

高橋重宏

わたしたちは、日常生活のなかで、「福祉」、「社会福祉」、「社会福祉事業」、「ソーシャル・ワーク」などのことばを安易に使用している。本講義では、まず、これらの基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、社会福祉の歴史的展開過程、社会福祉のしくみ、分野、ソーシャル・ワークなどについて論及し、社会福祉の現況と課題について、

一応の体系的な理解ができるようつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕 『社会福祉六法』（第一法規）、『現代社会福祉事典』（全国社会福祉協議会）

障害福祉論

原田 信一

主として、わが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』（第二版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児(者)福祉』（田研出版）

社会福祉実習

原田 信一

これまで自らが、大学の場合において学びとってきた福祉学という学問を、実習現場において、実際の福祉従事体験等を通してそこにいかなる相反や矛盾面があるかなどの現実認識を深めるとともに、福祉の本質の一端を学びとってもらう。一方大学においては、実習前と実習後に、オリエンテーション、現業機関の組織、機能等を実践に即した概説などをトータルのに教導し、反省・討議をもあわせて行い予定である。また、実習にのぞむにさいしては、各自が、実習の目的を適確にとらえ、何をとくに実習するかの問題意識を整理し実習にのぞんでもらうことについては今更言うまでもないことである。

〔教科書〕 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）

社会福祉法制

小林 弘人

本講義は、憲法25条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理し、体系化することを目的とする。前期の前半は、『社会学研究』15号所収の「西ドイツにおける社会保障行政」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書「社会事業法制」に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

公的扶助論

小沼 正

公的扶助は、社会保障とくに所得保障において、社会保険と並ぶ主要な部門であり、貧困救済の最後の安全網 Safety net といわれる。わが国では生活保護制度によって代表される。

生活保護について、欧米諸国を念頭において、歴史的生成過程、現行制度とそのもつ問

題点——最低生活水準とその算定方法、保護率、受給者の権利意識その他——、将来の方向などを取上げる。

これら諸問題は、ひろく社会保障そのものを規定する基本的条件である。

〔教科書〕 小沼正『貧困—その測定と生活保護—』〔第二版〕（東京大学出版会）

〔参考書〕 籠山京『公的扶助論』（光生館）

仲村優一『生活保護への提言』（全社協選書）

児童福祉論

原田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業（児童福祉法など）の関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

老人福祉論

奥山 正 司

日本の老人福祉を論じるばあい、まず、その社会的背景となる人口高齢化の問題、定年制や高齢者雇用の問題、地域社会の変貌と老人社会参加のあり方、家族と老人扶養のあり方などを、それぞれ検討する必要がある。したがって前半で、人口高齢化と老人扶養のあり方、定年制の状況、家族構成の変化と老人問題、家族周期と老人問題などを講義し、その後、老人福祉制度と老人のかかわり、老人処遇のあり方、老人のモラルなどについて講義したい。

なお、授業の進め方、参考文献などは、受講者の人数や関心などを考慮に入れ、開講時に決定したい。

社会保障概論

小 沼 正

まずわが国制度の現実を把握するため、その主要な医療保障、年金保険、公的扶助、児童手当などについて概観し、それぞれの問題点を取り上げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点をおいて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政などについて、論点を進める。

〔参考書〕 小山路男・山本正淑編『社会保障教室』（有斐閣選書）

小山路男・佐口卓編『社会保障論〔新版〕』（有斐閣双書）

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきか」を中心に論ずる授業である。“根廻し”はなぜ施さなければならないのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

「ワーカーは福祉三大技術を総合的に駆使しなければならない」(integration)と言われるが、その具体的意味は、上記の通りである。その点で本講は「方法総論」、「ケースワーク論」、「グループワーク論」と補充関係にたつものである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのまま地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってくれることが望ましい。(もちろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが)

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論』(大明堂)

〔参考書〕 岡田真『都市化日本の学歴社会』(大明堂)

小沼正『日本の福祉の課題と展望』、『日本都市学会年報』(1983), 『駒大文学部研究紀要』(1981), 『駒沢社会学研究』(1982)の岡田論文。

ケースワーク論

高橋重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かを体系的に理解できるようにつとめたい。なお、後半の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

講義を効果的に展開するために新設された『社会福祉方法総論』も併せて履修すること。

〔教科書〕 仲村優一編『ケースワーク教室』(有斐閣)

高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』
(川島書店)

グループワーク論

松本栄二

社会福祉実践における伝統的な方法としてのグループワークについての入門的な講義。グループ指導とソーシャル・グループワークの共通点と相異点。

グループワーク概念についての明確化を歴史的な流れのなかで検討。Social work with group と Social groupwork 両者の比較検討。

グループワーク実践の記録を通じて、具体的な援助技法について紹介、病院、学校、諸々なるタイプの収容施設における実践記録を用いて検討。

出来れば、Role Play, フィルム等も用いて講義をすすめてみたい。

〔参考書〕 コノプロ『ソシアルグループワーク』（全国社会福祉協議会）

社会福祉事業発達史

林 千代

社会事業は、近代社会がスタートするにつれて生成したと考えられている。もちろん、いつの時代にも、生活の不安は→自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。こんにちの社会福祉事業、社会福祉、社会保障、福祉国家に至るプロセスは長く、かつ遠かった。外国、特に英国そして日本にわけて、対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等々を中心に講義していきたい。一定の歴史的産物である社会福祉その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 その都度紹介していく。

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。これらは、いわば婦人問題の集約であり、福祉施策の最も具体的な対応がせまられる。このような問題意識に立って、講義のあらすじを示すと次のようになる。1. 母子家庭とは（法的規定、生成要因など）、2. 母子家庭の生活実態とその困難（所得、消費生活、家事機能、住宅等）、3. 母子家庭の生活問題に対応する母子福祉施策（経済的貧困に対して、育児、病気、住宅について、母子寮についてなど）

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 その都度紹介していく。

医療社会事業論

春見 静子

医療技術の進歩と疾病保険の普及により、現代人の生活は医療に対してますます密接な関係をもつようになった。しかし、いつの時代も疾病は患者はもとより家族にとっても大きい脅威であり、そのために医者による治療だけではなく、MSW（医療社会事業者）による心理・社会的または地域活動的援助が求められる。この授業の目的は、一般病院、精神病院、施設などで医療チームの一員として患者の問題を分析評価して専門的援助ができるようになるための基礎的な知識と初歩的な技能を授けることによるための基礎的な知識と初歩的な技能を授けることであり、そのために講義だけではなく事例研究や実技を含むことになる。

- 〔教科書〕 杉本照子 『医療におけるケースワークの実際』（医学書院）
〔参考書〕 小松源助他編 『事例によるケースワーク演習』（川島書店）
田村健二他編 『精神障害者福祉』（相川書房）

社会福祉方法総論

高橋重宏

社会福祉実践の専門技術について、その歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能を明確化し、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に、事例を用いながら展開したい。

- 〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）

社会福祉管理運営論

重田信一

社会福祉実践を、社会福祉行政機関・団体・施設の運営をとおして、福祉効果をたかめるよう方向づけ、それを確保できるよう組織化し、関係者を動機づける具体的な方法について研究したい。教科書のほか、参考事例を引用して、実践に役立つよう配慮する。

- 〔教科書〕 重田信一『アドミニストレーション』（滅信書房）
〔参考書〕 高沢武司『社会福祉の管理構造』（ミネルヴァ書房）

全国社会福祉協議会編『社会福祉施設運営管理論』（全社協）

リハビリテーション論

原田信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因につながっているといわれる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

- 〔教科書〕 講義ノートによる。
〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野昌蔵

社会教育制度と法
学校教育と社会教育
社会教育関係団体

社会教育方法論

磯野昌藏

社会教育の諸形態と施設について検討する。

社会教育行政財政

酒匂一雄

社会教育行政は、施設の設置・運営、集会の開催、資料の作製その他の方法で、「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るように環境を醸成するように努める」ことを課題としている。

①まず多くの具体例を導入部とし、②社会教育行政を政策や法制、運動との関連で理論的に考察し、③戦前、戦後の歴史的展開を跡づけて概観する。④さらに、社会教育法利の構造、特質、展開を検討し、⑤住民と行政のかかわり、社会教育職員の役割を吟味し、⑥自治体における社会教育計画と財政の現状と課題を整理する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。

〔参考書〕 小林文人他編『社会教育ハンドブック』（総合労働研究所）
『社会教育行政必携』〔58年版〕（第一法規）

教育社会学

村山輝吉

人間の発達という課題を、主として社会環境と文化の変容という視点から概説する。

1. 教育社会学の性格
2. 家族の訓育機能
3. 仲間集団と人間形成
4. 学校の陶冶・形成機能
5. 地域社会と教育
6. 文化の変容と子どもの発達

社会心理学

坪井健

本講義は、社会心理学をめぐる諸問題に配慮しつつ、基本的には社会生活をしている人々の社会心理諸現象を、これまでの社会心理学が明らかにしてきた知見に依拠して、その社会的過程と心理的過程を分析的に解明することを目的とする。

〔教科書〕 開講時に明らかにする。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは
2. 社会教育施設の歴史と現況、関係法規
3. 施設各論

- (1) 公民館 (2) 図書館 (3) 博物館 (4) その他

4. 施設職員の問題

児童教化

富田博之

学校教育、社会教育、家庭教育など、広く子どもの教育に関わる人々のための《児童文化入門》とするため、受講者の人数、関心、要求などを考慮の上、つぎのようなプログラムの中から、取捨選択して授業内容を組みます。

- (1) わが国の児童文化をつくった主要な人物の業績をふりかえってみることを通して、児童文化とは何かを考察する。〔児童文化小史〕
 - (2) 現在、子どもをとりまく文化状況はどうなっているかを展望し、検討する。《児童文化の現状》
 - (3) 児童文化活動に関わる人々に必要な基礎的の力量を身につけるための実習。《お話、遊び、演劇などのコミュニケーション・メディアの学習》
- 〔教科書〕 使用しません。
〔参考書〕 富田博之『児童文化入門』（国土社、近刊）

青少年問題研究

和田謙寿

中学校・高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者（社会教育主事・保護司・民生（児童）委員・青少年指導員）を志す人々を対象とし、その理論と現実の両者をつめつつ講義をして行きたい。特に学校の教師となった場合、専攻した学問は当然のこと、受持った生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬ。

その点にも深く留意して授業をすすめる事にしたい。

青少年問題に興味を持ち、外部の機関と連携しつつ更に研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研究会員として入会されるのも一方法と考えられる。

〔教科書〕 和田謙寿『少年補導の研究』（全防連） ¥ 1,200

青少年指導演習

和田謙寿

年々少年の不良化や犯罪の増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済まされるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。将来、保護司や民生委員（児童委員）、少年補導員、社会教育主事などの社会教育行政に従事しようとする人たちには、是非とも必要な講座である。青少年の問題に興味を持ち、外部の機関と連携しつつ、更に研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研究会員として入会されるのも一方法であると考えられる。〔ゼミなので人員数の多い場合は制限することもある。〕

社会教育演習

上岡安彦

“社会教育実践記録”による通年のテキスト学習を行なう。又、秋には埼玉県川口市の公民館、幼児館、児童文化センター、青少年会館、婦人会館、視聴覚ライブラリー等による一週間の現場での社会教育実習を行なう。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（財団法人全日本社会教育連合会） ￥750
文部省内社会教育行政研究会編集『社会教育行政必携』（第一法規） ￥1,800

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまずきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 永野重史『教育評価論』（第一法規） ￥1,800
池田 央『テストと測定』（第一法規） ￥1,800

教育法規研究

神田 修

教育法規の基本問題を考える。

〔教科書〕 『解説 教育六法』〔昭和59年度版〕（三省堂）
兼子仁・神田修『教育法規事典』〔昭和57年第二版〕（北樹出版）
神田修・山住正己『史料日本の教育』〔昭和57年 改訂増補版〕（学陽書房）

成人指導及青少年指導

酒匂 一 雄

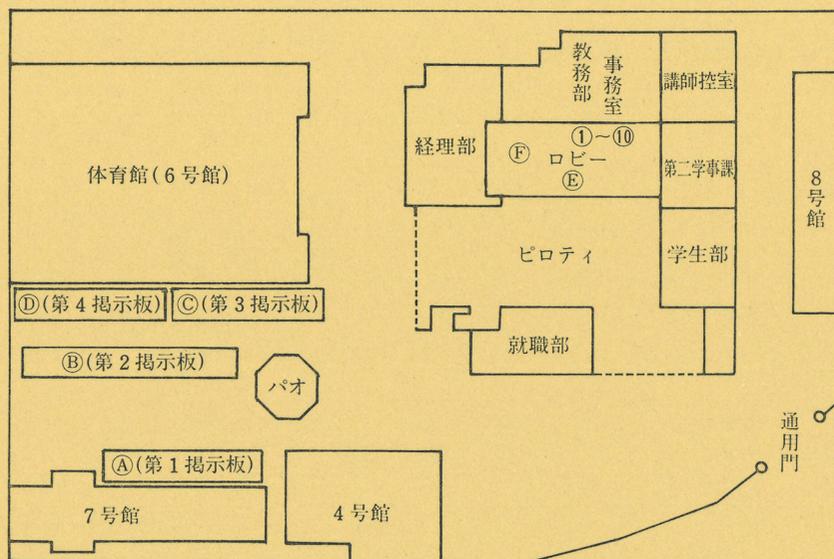
今年は、子どもの発達と家庭・地域の教育を中心に講義する。

①現代教育にとって、青少年の発達にとって、家庭・地域はどういう意義をもつか、調査結果から考察。②地域の子育ての習俗、戦前の少年団体の組織化などの歴史を概観。③現代の子どもの生活構造の変容、「学校外教育活動」の現状、子ども会・少年団などと地域の教育力の内容を把握。④地域の子どもをめぐる国の政策。⑤地域の教育と社会教育行政、児童館や学童保育の現状、学校と地域の連携協力とそこでの「指導」のあり方などを考察する。⑥あわせて成人の発達にとっての地域の意義と「指導」の種々相を吟味する。

〔教科書〕 必要によりプリントを用意する。
〔参考書〕 酒匂・増山『子どもの発達と家庭・地域の教育力』（岩波講座『子どもの発達と教育』7）



教務部窓口及び掲示板案内



- | | |
|---|---|
| <p>①教職課程
学校図書館司書教諭講座</p> <p>②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座</p> <p>④証明書(教務関係)申込受付・発行
(健康診断書は医務室)
(在学証明書は学生部)
諸証明書申込用紙は
経理部前にあります。</p> | <p>⑤諸届願 (休学・退学・復学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更
保証人住所変更・聴講)</p> <p>⑥大学院関係・留学生関係
学部演習 (仏教学部・経済学部)
(法学部・経営学部)
卒業論文 (仏教学部・文学部)</p> <p>⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部科</p> <p>⑨履修・試験・成績・学業相談</p> |
|---|---|

- ①……………公示・告示・その他連絡事項
- ②……………学部別連絡事項・その他
- ③……………教職・その他

- ④……………研究室専用
- ⑤……………休講掲示板
- ⑥……………授業時間表カウンター

